



エスペラント研究

JARO XVII N-RO 4

PROKSIME: KIJOMIZU, FAMA
BUDAISMA TEMPLO, KIOTO
MALPROKSIME: URBO KIOTO

REVUO ORIENTA

1936

JAPANA ESPERANTO-INSTITUTO A P R I L O

エスペラント運動後援會生る	123
エスペラントの聖書	三宅正太郎 124
人工語に對する私の考へ	パーマー 126
萬國兒童作品展覽會について	荒木 遜 128
フランス文學とエスペラント	寛太郎(譯) 131
エスペラントの大乗性	山口竹千代 134
Robert Kreuz 氏を惜む	進藏靜太郎 135
動詞 Fari の用法 (3)	小坂 狷 二 136
Aŭtentika Teksto de Z.	川崎 直 一 139
Plena Gramatiko 紹介 (3)	岡本 好 次 140
Jane Eyre の戀 (完)	萬澤まき子 144
新刊紹介	147
Kiamaniere malnovaj! japanoj antaŭdivenis la veteron?	田口 龍 雄 148
Pri la Jafetida Lingvoteorio	I S A J E V 150
内外報道	編輯 部 155
〔附録〕1936 年度 Revuo Orienta 總目錄	

我國に於けるエスペラント普及・研究・實用の中心機關
財團 法人 日本エスペラント學會

東京市本郷區元町一の一三

—【電話小石川(85)5415 番— 振替口座東京11325番】—

世界エス運動の中心機關萬國エスペラント協會(UEA)に對し我國を
代表する本會に入會され我國のエス運動を援助せられよ

目 的	エスペラントの普及、研究、實用
事 業	(a) エスペラントに關する各種の研究調査及其發表 (b) 雜誌及圖書の刊行及外國エス語書籍の取次 (c) 講演會講習會の開催及後援 (d) 其他本會の目的を達成するに必要な事業
會 費	(a) 普通維持員 年額2圓40錢 (b) 正維持員 年額3圓 (c) 贊助維持員 年額5圓 (d) 特別維持員 年額10圓以上 (e) 終身維持員 一時金100圓以上
維持員へは	La Revuo Orienta を無代配布する他當會發行新刊圖書の割引等をなす ことあり
本 會 の	普通維持員を除く他の維持員はすべて萬國エスペラント協會(UEA)の 普通會員 (simplo membro) となる
入會手續	住所 職業 姓名(振カナ付)を明記し會費一年分を支拂へばよい

會則及發行及取次内外圖書目錄要郵券二錢

役 員 名 簿 (五十音順)

理 事 長 大石 和三郎	同 東郷部長 土 岐 善 磨	理 事(常任) 三 石 五 六
理 事 井 上 仁 吉	同 醫 博 西 成 甫	同 (同) 美野田 琢磨
同 元東北大校長 井上 萬壽藏	同 藤 澤 親 雄	監 事 醫 博 鈴 木 正 夫
同 上 野 孝 男	同 監督局長 前 田 穰	同 堀 眞 道
同 小 坂 狷 二	同 醫 博 望月 周三郎	同 清 水 勝 雄
同 中大教授 川原 次吉郎	同 柳 田 國 男	顧問 法 博 穂 積 重 遠
同 文 博 黒 板 勝 美	同 (常任) 大 井 學	同 子 爵 三 島 章 道

LA REVUO ORIENTA

エスペラント運動後援會生る

我が學會が大正八年末協會の後をうけてエス語普及運動の第一線に活躍し始めてからこゝに十六年の歳月を閲した。過去十六年間の學會の活動の跡をたづねてみるにその仕事振は全く唯堅實の一語につきると思ふ。この學會の堅實な經營振は一つには協會が社會狀勢の不利や自らの微力を顧みずして積極策をとつた結果經濟的に全く行つまつてしまつた前車の覆轍に教へられる處が多かつたこと他方小坂氏及びその下に献身的に活動した人々がエス運動は十年や廿年で大成するものでなく氣永に世の毀譽褒貶に拘らず堅實にエス運動の火をもちつゞけてゆくべきだといふ堅い信念の下に努力をつゞけ貧弱な財力を以て線香花火的の運動をすることをお互にいましめあつてきたからであらう。

併しこの堅實第一主義は學會にあつて親しくその仕事の一端を分擔された人々には十分理解されたが學會の仕事を外部から傍觀してゐた人々の眼にはとかく消極的退嬰的な引込思案の様にみえたらしい。時々金のかゝるすばらしい積極策をもちこんできた人が澤山あつた。しかし學會の貧弱な財的基礎はこれらの人々に満足を與へることができなかつた。

而して今日に於ても學會が從來から遵守してきたこの堅實主義を放擲するほどに強固な財的基礎が打たてられたとは云へぬ。一千名内外の會員の會費の總額は二千四五百圓位にすぎぬ。しかも機關誌印刷費のみに千五六百圓かゝる。その外に發送費會員の移動整理の事務費事務所維持費編輯費等々を加算すれば會費から赤字こそでるが何の剩餘金もでないといふ有様。これでどうして花々しい宣傳ができよう。この事は前號で原田氏も一寸のべられてゐる。二年三年後はどうなつてもよいといふのならまた別の話だが。そんな無責任なことはできない相談だ。

じつと落付いて物を理性的に考へてみれば堅實第一主義より外にとる方策はない。責任のない立場にある人はなんとでも云へよう。しかし責任ある立場にある人々としては無暴な積極策をとりえないことは明かである。

しかし誰しも人間である。理性をはなれ人情から云へば花々しい運動がやつてみたい。事務の衝にあたる者としても花々しい積極策が何で嫌であらう。しかもこういつたやり方が地味な堅實一方のやり方よりも數倍人氣をよぶことが明瞭なのであるのに。血氣旺んな地方會の方々の申出る積極策の一々をとりあげたいのは山々である。しかし實際無い袖は振れないのである。宣傳パンフレットの刊行廉價本の續刊等々學會の現在の實力では不可能なのだからどうともしようがない。積極策には何といても軍資金がともなう。酒がなくても花見はできようが軍資金のない積極政策は畫にかいた餅の類だ。今の學會が積極策をとるには機關誌の發行を中止すればできぬことはない。しかしこれは會員が承知すまい。機關誌の増頁を斷行することによつて百五十名以上の新會員が増加した事實は否定することのできぬ現實だ。

飽くまでもいひたい。學會の役員や事務に當つてゐる者達が積極策が嫌ひではないのだ。否

むしろ軍資金さへ潤澤であれば直ぐにも積極策をとりたいと思つてゐるのだ。

しかし今の學會の状態では積極策をとる日が来るのは何時の日か前途遼遠の感がする。こゝに於て何等かの方法によつて學會の財政とは全く獨立に軍資金を捻出してこゝ二三年間積極的の宣傳方法をとつてみて、もしもそれが豫期以上の好結果を齎すものとすれば學會も從來の堅實第一主義に積極策を加味してもよいといふ見透しもできようといふものだ。

かく考へることによつて積極策をとるための運動資金を募集するために學會の役員が中心になつて全國の約二百名の同志の賛同の下にエスペラント運動後援會が設立されたのである。而してこの後援會は學會の會計とは全く獨立したものであつて集つた全資金は残らず積極的にエス運動をするために支出されることになつた（本誌卷末の趣意書参照）。

エスペラント運動後援會は一般同志諸君の賛同をえて多額の資金が集まれば大きく積極的にうごくことができるのである。どんな仕事をするかはまだ十分きまつてゐるわけではなく全く集つた金額の多寡によつてきまるのだ。

後援會の設立が叫ばれるや既に各地から熱烈な支持聲援をおくつてこられる方々が多い。既に五圓十圓と寄附金を送つてこられた方もある。年額五十圓六十圓といふ申込さへ來てゐる。唯だ感激あるのみだ。

エス運動の將來を双肩になはれて活躍されてゐる同志諸君よ！金額の多少に拘らずこの後援會を支持されよ。又如何なる仕事をなすべきかも書き添へられよ全國の同志諸君後援會が有能に活潑に働けるよう金と頭腦を提供されよ。

エスペラントの聖書

三宅正太郎

「一犯一語」といふのは、大杉榮のいひ出した言葉で、その意味は、刑務所の門を潜るたびに、新たに一外國語を學ぶといふことである。大杉の自叙傳によると、彼は最初の未決監でエスペラントを習ひ、第二回目のときイタリー語を、第三回目にはドイツ語、といふ風に段々におぼえていつたそうである。一體語學を習ふといふことは、それ自體善でもなければ惡でもないことだから、どんな思想の持主にも、之を拒む理由はない。それどころか、これによつて出獄後翻譯といふ正業に就かせることが出来る。だから監房では、辭書を自由にあてがはれるので、初歩の獨習書をたよりに、丹念に言葉をおぼえてゆくことは、氣の散らない場所だけに、極めて効果的であるらしい。かくして、大杉以後、幾多の小大杉が、暗い監房の中で、懸命に辭書を繰つてゐたものである。

これも、その一人であるが、かれこれ十年の昔、私の裁判した或る思想犯人が、いよいよ服罪して下獄するとき、私に、エスペラントを勉強したいからエスペラント語の聖書を看讀させて欲しいといひ出した。だが私は、英語やドイツ語ならいざしらず、エスペラント語を學んだところで、彼の出獄後の生計の足にはなりそうもないと考へたので

「エスペラントなんか勉強したつて、何にもならないぢアないか」といつた。この私の言葉に對して早口の彼は、何かいはうとしたらしいが、それをやめて、一寸皮肉な表情をして

「でも、やつて見たいのです」とキツバリといひきるのである。私は別に、それ以上こだはる考へもないので

「よし、入れてあげよう」

と彼に約束した。刑務所の規則によると、未決に居る間は、被告人は、自分の読みたいと思ふ書籍を差入れさせて、読むことが出来るが、一旦、刑が確定して受刑者となると、彼は、刑務所の書庫にある書籍しか読めないのである。それ故、もし或る受刑者に是非読ませたい本があつて、それが書庫にない場合は、一旦その本を刑務所に寄附してあてがふより外はない。勿論その場合、その本を刑務所の書籍に編入するについては上司の認可を受ける必要があるのである。もとより、エスペラント語の聖書なんていふものが、刑務所の書庫にあらう筈はないのであるから、私はそれを買求めて刑務所に寄附することにした。しかし英語やドイツ語の聖書は、どの刑務所の書庫にもあるから、それを備へ付けるのには上司の認可を受けることは何でもないと、私は考へてゐた。

私は早速、東京の友人に手紙を出して、エスペラント語の聖書を探して送つてくれと依頼した。

その聖書がまだ私の手許に到着しない或る日、東京のエスペラント學會の名で、私にあて小包が届いて、あけると中にはエスペラント語紹介の雑誌やパンフレットの數種が這入つてゐた。私は、それを、いつもよく郵送してくるいろいろな宣傳用出版物の一つ位にしか考へなかつたが、前の経緯があつたため、一寸素見してみる氣になり頁を繰つてみた。そして、こんなにラテン系の語に近いものを作つておいて、世界に通用させようといふのは、ラテン人種として少々蟲がよすぎはしないかと思つたり又一面には、そのかはり、新造語によく見る生硬さがなくて、さすがに人を魅する力があると感じたりして、半日位は、エスペラント語で、過ごしてしまつた。

そうかうするうちに、東京からエスペラントの聖書が到着した。それは、上等な革の裝釘で縁は金になつてゐる立派な聖書であつた。私はそれを持つて刑務所に往き、これを寄附したいから司法省の認可をとつてくれと頼み、序に、例の受刑者に面會して、そのことを話しておかうとした。

早速、やつてきた彼の面上には、いつもとちがつて、どこか明朗な色があつた。私がまだ何もいひ出さない前に、彼は、

「エスペラント學會から何か來ませんでしたか」

と私に訊いた。その言葉で私は、初めて曩の日のあの刊行物は、彼が、私の蒙を啓くためにわざわざ獄中から、ハガキを東京に送つて私の處に郵送させたものである事がわかつた。私は赤面もしたがしかし彼の親切に感謝した。幸ひに私は刊行物をよく讀んでゐたのでそのことは彼を満足させたらしく、エスペラントの聖書を刑務所に持つてきた私の好意も、素直に彼にうけ入れられたのであつた。

然るに、その後二月たつても三月たつても、エスペラントの聖書は、彼の手に渡らなかつた。司法省の認可がまだ下りないといふのである。私は、英文や獨文の聖書もエスペラントの聖書も、聖書であることにかはりはないのに、なぜ、エスペラント語で書いた聖書だけを警戒しなければならないのか、私には不思議で不思議でならなかつた。そうして半年以上の歳月がわけなく經つてしまつた。私は堪りかねて書面を司法省に居る友人に送り、司法省の無情を非難し、もう少し受刑者の利害に敏感であつてくれと書いてやつた。

その返事が、まもなく友人から來た。それを讀んで、私は參つてしまつた。友人は、こういふのである。お前はエスペラントの聖書を刑務所に入れよとしきりにいふが一體、そのおまへ

の入れようとする書物がエスペラント語で書いた聖書であるといふ事はおまへだつてほんとうにはわかつてゐまい。官として受刑者用の書籍として採用するには、たしかにその内容が聖書であるといふハッキリした根據がなければならない。英語やドイツ語なら、その内容が聖書であるといふことは、調べればすぐにわかるが、官には、エスペラント語を解する人が居ないから、そういふ調査が出来ない。だから英文や獨文の聖書が刑務所に這入つてゐるからといつて不平をいふおまへは、料簡が足らない。かう書いてあつたのである。

そういはれて見れば、まことに理の當然で、私も返す言葉がないから、全面的に降参して、私の折角の計畫を放棄してしまつた。恐らく、あのエスペラントの聖書は今も名古屋刑務所のどこかの隅で埃の間から、ひそかに、縁の金色をのぞかせてゐることだらうと思ふ。(以下略)

〔北海タイムス昭和 10 年 9 月 16-17 日より轉載〕

〔本誌記者附記〕 現札幌控訴院長三宅正太郎氏は我國有數のすぐれた法官であることは世間衆知の事である。同氏の名古屋在任中の上の一挿話は我々にとつて興味ふかいものである。同氏のエス語に對する好意もありがたいがしかし上の一文をよんで我々としてはなぜ三宅氏がもつと一歩つつこんでその司法省の友人とかに「司法省にエス語のよめるものが全然ない筈はなからうから適當な司法官に紹介してエス譯聖書の内容について上申させた上許可してもらひたい」と嚴談をもちこんでくれなかつたかと思ふと残念である。單に司法省のその係がエス語がよめぬからといふことのためエス語聖書が許可されぬとは何と融通のきかぬことであらう。

人工語に對する私の考へ

(3 月 14 日東京基督教青年會館でのパーマー氏送別會席上の演説和譯)

ハ ロ ル ド ・ パ ー マ ー

私はまもなくこの魅力にとんだ美しい日本を去ることになりましたがここに人工語についての全般的の意見を述べる機會を與へて下さつたことを感謝致します。多分私は皆様が御存じないことや特に皆様に耳新しい事を申し上げることができないと存じますが私が皆様に申し上げたいことは私の人工語の運動に對する長い間の關係であり又この問題についての私の見解であります。

三十年前に私は人工語の考に對して反對でありました。そしてその當時は私はそれについて澤山のたわいないこと——聞きかぢりの連中が之迄も云つたし又今日も相變らず云つてゐて多分今後とても云ひつづけるであらうようなあのたわいないこと——を喋りちらしました。併し私が始めてエスペラントの眞の性質と眞の目的と有用性を知ると共に私はエス語運動に参加しその最も熱心な活動的な支持者となりました。そして私はベルギーのある町で數名の友人と共にその地方にエスペラント會を創立しました。その會は後にベルギーエスペラント聯盟に加盟しました。我々は活動しました。我々は公開講演會をひらきました。又初學者のため講習會をもひらき間もなくその町の五六十名の人々がエス語を用ひることができる様になりました。

私は多分エスペラントを直接教授法 (rekta metodo) で教へた最初の人間でありませう——その當時此教授法はあまり知られてゐませんでしたし又殆んど實用されてゐなかつたのですから。1907 年私はケンブリヂの第三回萬國エスペラント大會に出席してそこでザメンホフ博士に紹介される光榮をえましてこの教授法の問題について話しました。

その次の年ザメンホフ博士は我々の會長 Kolonelo Lemaire に招ねかれてブルッセルにやってきました。そこで會長はザ博士に改造派の提案を承認する様に懇願しました。併し博士は之に同意を與へませんでした。間もなく改造派は全エスペランチストを承服することができなくてエス運動を去りイード運動を始めました。私も改造派の一人でありましたのでイディストになりました。

といふのは。私はエスペラントよりもイードの方に興味をもつたからです。かくて遺憾ながら兩者の間の戦はつづけられました。これは残念なことだと思ひます。

併し私はこの二つの言語は將來合するといふ希望をもつてゐます。(中略)

で私の考へではこのエスペランチストと改造派との希望を合流さすための手段について研究するために中立的の機關が既に存在してゐると思ふのです。もつともそれは政府でも當局でもありませんがエスペランチストやイディストやオクシデンタリストやその他の人工語運動者の信頼の下に中立的な機關として存在してゐます。即ち IALA (International Auxiliary Language Association) です。之は Morris 夫人の指揮下にあつて活動してゐます。

昨年十月に私はブルッセルでこの IALA の事務所を訪問する機會をもちここで Morris 夫人及び英國の有名なエスペランチスト Collinson 博士とこの人工語運動相互融和の可能性について話しました。その時我々は「基本エスペラント」(Baza Esperanto) をつくる可能性について話しあひました。それは語彙の極めて少いもので初學者や正則なエスペラントを學ぶ時間のない人々に向くものであります。*

御承知の如く私は英語及他の言語の基本語彙について興味をもつてをります。そしてこの語彙の數を少くするといふ方針を人工語にも應用することは有用であり重大であると考へます。もし英語が單に千語位で話したり書いたりできるものならばエスペラントではもつと少い語彙でできませう。

御承知の如く私は英語の研究者であります。それにどうして私は人工語に盡力することができようかとお考へでせう。英語の研究家が同時に他の言語の研究家であることは自家撞着ではないでせうか。どうすれば私が同時に二つの仕事に努力することができませうか。日本には澤山の英語研究家も居り澤山のエスペランチストもゐます。そして世間では英語學者とエスペランチストとは争鬭せねばならぬと云ひます。

しかし私はそうでないと云ひたい。決して然らずと云ひたい。英語とエスペラントは對立するものでもありませんし、反抗しあふべきものでもありません。これは私の十分考へた上での意見です。

エスペランチストと英語學者とは共に國際性 (internacieco) の理想を目標とするものである。エス語の如き人工語は實用的交通を主とし英語は文化上の交通を主とするものである。そうではないでせうか。

人工語は實用的で簡単な道具です。日常の一般交通具です英語佛語その他の言語は現今も又今後も相當長い間文化の普及の自由な傳統、美文學等の重要な用具であると思ひます。そうぢやないでせうか。(中略)

*〔和譯者註〕これは Basic English のやり方をまねたもの。尤もパーマー氏は Basic English には反對を言明されてゐます。そして必ず學習すべき少數の基本的の語彙のリストを作ること努力されてゐる。それによつて英語の學習を容易にすることを望まれてゐる。併し Basic English の如きゆき方は語彙を歪曲するものであるので反對されてゐる。

エス語運動と英語と兩者はそれぞれ固有の價值をもつてゐる。又兩者には獨自の分野がある。キリストは「神のものは神にかへせシーザーのものはシーザーにかへせ」と云つた如くに。

猶私の意見に従へば人工語はそれ獨特の目的をもつてゐる。それは *semantika interrilatilo* となることである。換言すればそれは容易に確實に語と語を以て表現できるものとの間の眞の關係を探究することのできる道具又は手段である。人工語、而してこの語のみが、人工的字母 (*artefarita alfabeto*) が語の發音をしめすために役だつ如く語の意味を示すために役立つ。音標文字は人工的である。それで發音の役にたつ。又同様に意味 (又は *semantiko*) のために役立つために人工的語彙が必要である。よし人工的語彙が他の用途をもたぬにしてもこれは言語學上必要である——言語學の問題を探究するものの手助の道具として。

いつかは——それは何時のことか誰もしらないが——人工語は全世界の補助語となりませう。それは確かなことです。併し種々の國語が消滅はしないでせう。否これと反對にその言語を話す民衆の生存する限りその言語はつづくでせう。

私の生存する限り私は人工語のためにも働き又私の國語——英語——のためにも働ませう。

これが私の意見であり確信です。これが私のこの問題に對する見解と立場です。私のこの見解をお話する機會と *gis iama revido* とさよならを申上げる機會をお與へ下さいました皆様に感謝します。



萬國兒童作品 展覽會について

大牟田 荒 木 遜

從來の地方エスペラント運動は研究宣傳に偏して大切な實用方面が立ちおくれの状態になつてゐるのを遺憾に思ひ旁々國家社會にエスペラント奉公の實を挙げたいと云ふので昭和九年一月九日夜植田會長宅での大牟田エスペラント會の新年初會合の席上不肖私から右提案致しました處多額の經費と勞力とを要するに拘らず早速植田會長の採用さるる處となり地元同志も萬場一致の支持を聲明されましたので勇躍準備に着手致しました。先づ植田會長より大牟田市學務課、市教育會、市内外各小學校に外國兒童作品との交換資料提供其他の援助を依頼され、同年九月頃から各小學校生徒の圖畫、圖案、習字、作文、手工品がボツボツ集り十二月までに都合十三校より千百餘點揃ひました。そこでエスペラントにて趣意書を書き、學會の御盡力で右趣意書の外作品の説明書其他必要用紙の印刷をして貰ひ、作品と共に此等の書類を同年十二月二十五日クリスマスの夜二十四時頃迄にかかつて全世界殖民地屬領を合せて七十ヶ國百二十七ヶ所の UEA の *delegitoj* へ發送。同時に UEA 本部へも援助依頼の手紙を出しました。(本誌昨年 61 頁寫眞參照) やがて昭和十年四月 UEA の機關誌 *Esperanto* に本會の趣意書が公表され獨逸の *Heroldo de Esperanto* 瑞典の *Esperantbladt* 等々續々轉載聲援を與へてくれまして、爲めに各國未知の同志からまで引切なしに激勵の葉書が舞込んで來ました。

外國へ作品を送つた時の宛名の選擇は第一に小學校の女教師とし次で男教師、視學、牧師、醫師等の順に致しましたが、男教師其他の内には不親切で返事もよこさぬ人がありましたけれども女の先生は例外なく返事をよこし大多數は代償として先方の兒童作品を送つてくれました。尙宗教家は流石に皆返事だけはくれました。斯くて三月までに約二十ヶ國から作品が集まりましたが植田會長の注意により更に督促狀を學會を煩はして印刷し四月末に發送致しました處其後十數ヶ國から集まつて参りましたので昭和十年十月廿六日から廿八日まで三日間大牟田市立商業學校講堂で我國空前の萬國兒童作品展覽會を開催するに至りました。出品點數は次表の如く千百九十一點で出品國別及作品種類その他も次表に示した如くであります。

	圖畫	手工品	其他		圖畫	手工品	其他				
アゾレス諸島			2	フランス	31		9	リトビヤ	11	7	20
アルゼンチン	12		1	ドイツ	66	1	5	滿洲國	3		
オーストラリア	35		3	ギリシヤ			1	メキシコ			1
オーストリー	33	1	17	ハワイ	3			オランダ	168	19	20
ベルギー	15			イスパニヤ	5		2	ノルウエー	95		1
ブラジル	16		1	ハンガリー	38	18	5	ニュージーランド			2
英國	26		2	ユーゴスラフ	102	29	2	ポルトガル	4		4
ブルガリヤ	12			カナダ	44	29	1	ルーマニヤ	54		1
チエツコスロバキヤ	44		6	カナリヤ諸島	3	2		シリヤ	9		
チリー	9			コロンビヤ			2	海峽殖民地	6		
デンマーク	10		1	コスタリカ	4		2	スエーデン	53		18
ダンチツヒ	6		1	ケニヤ			1	ロシヤ	2		2
エストニヤ			1	キューバ			1	米國	8		6
フィンランド	22		2	ラトビヤ	5	2	1	計	954	92	145
								總計		1191	點

當方の依頼に對し出品應諾は 41 國 61 箇所でありましたが實際作品を受取る事の出來たのは上表の如く 34 國 48 箇所 1191 點である。瑞西、波蘭土からは返事も得ることが出來なかつたのは遺憾でした。尙あまねく全世界から資料を集めることが出來なかつたのは首府とか大都會を避けて可成其の國の眞の姿を知りたいと思ひ主として小都市へ交渉したからです。

作品には皆國名、學校別、氏名、性別、年齢、學年を明記して貰ひましたが、學校の種類が國によつて違ふ所もあり邦譯に苦心しました。Elementa, popola, unuagrada lernejo は小學校とし、reallernejo は實業學校として見ましたがどうも我ながら感心出來ません。Popollern-ejo で八年生九年生といふのが有りましたが此等は尋常高等小學校と致しました。年齢は皆滿何年何月としてありましたが日本流に數へ歳に直して説明カードに記入しました。當市展覽會の中の日は恰も第十二回九州エス大會當日で理解深い同志多數の稱賛を博し永い間の勞苦も拂拭されて非常に愉快でした。三日間を通じて入場者は勿驚三千五百名を突破致しました。(第十二回九州大會の報に入場者數百の盛況とありましたが、あれは第一日の午前中のことです。)その後福岡日日新聞社の懇望で昭和十年十一月廿二日廿三日二日間福岡市福日樓上で展覽され盛況を極め本年に入つて一月廿日頃鹿兒島市山形屋でやはり福日主催で展覽會をやつたとかで鹿兒島市山下町五番地金尾義一君(十八歳中學五年)から感激の手紙が参りました。今後の福日主催本展覽會豫定地は京城外南朝鮮、飯塚、久留米、熊本は地元エス會の手で行はれる事と成りませう。お話が前後いたしますが今回最も嬉しく感じました事は當方から依頼しなかつた學校の先生などから廣告で知つたと云つて作品を寄贈された事で之に對しては當方に餘分の作品が無くて返禮が、出來ず心苦しく思つてゐます。殊に S-ro Gunnar Otterfors, Kiruna,

Svedujo からは 300 點の交換を申込んで來てゐますが未だに實行が出来ずに居ります。誰か代つて交換してくれる人はありませんか。

有難感激いたしましたのは大多數の教育關係者が日本兒童作品を其の學校の生徒に見せると同時に更めて日本に關する地理や歴史の特別講義をなしたと云ふ事で先方兒童の可愛らしい手紙の一に

『今までは日本と云へば藁屋根の住家のほとりに櫻の花が咲いてゐて、遠方に雪を頂いた Fujijama がそびえてゐる所と思つてゐたがどうして貴君方の畫を見ると飛行機もあればビルディングもある立派な文明國ですね』と再認識をしてゐるのもあれば或ひは『日本には毎日地震があるそうでさぞ恐いでせう』と他愛もない認識不足の同情をしてゐるのも尙ありました。是は我國の兒童から手紙で先方の先生生徒共に旨を啓いてやる様にしたいものです。又 S-ro Alfred Bräuer, Waldenburgerstr. 5.¹¹ Freiburg-Schlesien は『君の方の兒童の畫は皆洋畫であるが何故日本畫を教へないのか』と尋ねて來ました。是は教育當局者許りでなく全ての日本人が一考すべき點ではありますまいか。一昨年獨逸の Saar-Territorio 歸屬問題で一般投票の行はれた時獨逸兒童の畫いたポスター圖案『ザールは獨逸のもの也』とか、1920 年ポーランドによつて不法にも其の首府を占領されて了つたリトワニヤ兒童の畫いた宣傳ポスター『Viliniusこそ ĉefurbo de Litovujo なる事を知らざる者は Litovo に非ず』とか、世界大戰に敗れたハンガリー人が祖國の四邊を割取せられ今ではチェツクの國籍になつてゐても元の大ハンガリーと現在の縮められたハンガリーを同時に描いて臥薪嘗膽の意氣を示して居るのを見れば其の教育指導方針が窺れる様な氣が致します。『日本ではエスペラント運動がこんなに盛になつてゐる、自分達ももつと奮發せねばならぬと急に講習會を始めた』と云つてよこした所が二ヶ所ありまして、初めの手紙ではやつと意味の通ずる位だつたのが、二ヶ月後の手紙では立派な文章が書けてゐて驚かされました。外にもまだ種々面白いのがあり、統計分類表でも作れば良いのですが、何分手が足りずに残念です。尙同志諸君の御參考に申し上げたい事は、外國よりの種々な問合に就ては出来る限り眞面目に約束を違へず一々返事を出して「日本人は親切で信義を尊ぶ國民だ」と云ふ印象を植付ける様努めて参りました。某市の某は返事をくれぬとか約束の品を送らぬから注意してくれなどの plendoj まで來てゐます。同志よ我々は日本の代表者だと云ふ熱意を持ちませう！

當會からの手紙には必ず繪葉書を一二枚入れてやりましたが、初めは東京や大阪などの大都會の moderna や所を示し次回からは京都や奈良の klasika な物を見せ、漸を追ふて浮世繪の版畫や舞子のプロマイドなどを送つてやりました。此の順序が日本を正しく眞に理解せしめるに非常に役に立つた様に思はれます。

最後に誌上を拜借してこの事について蔭になり日向になり種々御激勵下さつた多數の方々に深甚の敬意と感謝を表します。

フランス文學とエスペラント

G. WARINGHIEN

寛 太 郎 譯

(原文はフランス語で書かれ “Franca Esperantisto” 4-a Jaro, N-ro 22, Januaro, 1936 に掲げられたものである)。

“エス語の特性は此の語を絶対正確なる翻譯の用具たるべく運動づけてゐる。エス語は原文の文脈に忠實に従ひ、句のリズムをすら保持する……エス語は韻文をも譯出する。之當然の事に非ずして何であらう。其の現代語なるの故を以て人造語が一種の特異なる散文に過ぎずと看做さるべき理由があらうか？ されば文學各方面に亘り極めて多數の作品がエス譯されてゐるのである。凡有重要作品が國際語譯を持つと云ふことは一大利益ではあるまいか。即ち國際語譯ならば各國に於て尊重せられよう。又之ならば著者自身に依り、或は又必要に依つては其の翻譯したる國語に練達せる著者の同國人に依り校閲されることが出来るであらう。”

以上は C. Aymonier 氏のパンフレット “Une Langue Vivante Artificielle” (人造現代語) より引用したものであるが、寔にエス語が文學の上に演ずべき役割を簡潔に言盡してゐる。煩多なる無定見の批評に今一々辯駁を加ふことは無益なりと考へるが、蒙昧の徒に限つて今日猶エス語に美的價值無しと斷じ、エスペラント文學出でざるべしと主張する。乍併苟もその何たるやを辨ふる程の者ならばエス語に依りてこそ稀に見る正確なる翻譯の可能なるを知る。エス譯が如何なる國語譯よりも將來色彩並に喚想力に於て及ばざるものあるは疑なき處である。乍併此の事實こそエス語が自然語よりも理論的な證佐である。年少文士共が感情傳達の常套手段たる陳腐なる語、換言すれば詩的な語を創作し之を馴致すべく努力してゐるにも不拘、斯くの如き語は見出される事がない。エス語の單語は大部分が論理的價值智的意義を有するのみである。其の代りにエス語譯は比類なき正確さを以て原文の精神、語の意義、句の動きを傳へる良きエス語譯の原文に對する關係たるや正にグラヴィア複寫の原畫に對する關係である。線は残るが色彩は失はれる。乍併之に依つて純正さと、全然新規なる價值が得られるのである。又良きグラヴィアは屢々其の忠實なる單純さに依り、かの原畫の筆勢を如何とも再現し能はざる野心滿々の模寫に勝るのである。

エスペラント文學は遠からずして特異なる複寫版畫の一大集成となり、各國民の傑作が忠實に複製分類せられたる大美術館と化し得る。乍併之が爲には協力が必要であり、順序を追ふて事に當るの要がある。されば既に 1912 年に G. Davidov はエス譯佛文學の列表を作成し序文中に次の如く述べてゐる。

“今日迄のエス文學の狀態は混沌を極めてゐる——多數の作品は幾度となく譯出刊行せられた。翻譯材料の選定にはやや場當りの處があり常に作品の重要性及對外的價值に基いて選出された譯ではない。かかる方法は二十世紀の今日に至つては既に不可である。吾人は精力を浪費する權利を持たない。吾人は一定計畫の下に在つて活動し國際的重要性ある作品のみを選んでエス譯しなければならない”

吾人は二十年を経たる今日猶之と同様の論を繰返し得る。蘇聯邦に就てのみ見るも一群の翻譯者が互にプーシキンの作品の翻譯に當つてゐるが。之正しく一定方法の缺如を示すものである。Davidov の列記せる「蟬と蟻」の翻譯八種に對し、更に今日尠くも二種の譯を加へ得る。

又「鳥と狐」の六種には更に三種が追加されんとしてゐる。然るにフランス大詩人の一人ラフォンテーンの筆に成る偉大なる寓話の如きは一つとして譯出されたるものなしと稱し得る。「井戸に落ちた星占ひ」も「若後家」も「悪病に憑かれた獸ども」も「二人の友」も「二羽の鳩」も「人と毒蛇」も「モゴル住民」の夢も譯されてはゐない。散文も亦同様である。即ちメリメの小説「マテオフルコネ」の如きは尠くも四回翻譯されたるに反し、譯出の價值充分なる「コロムバ」は曾て翻譯された事がない。

自分は以上の如き事實に對する理由を知つてゐる。即ち原文の長さが手輕である爲とか。又或ものは翻譯料支拂の要なき爲とか言ふにある。乍併之を以て専ら甚しき無頓着と無智の致す處なりと斷ずるもよく否定し得る者はあるまい。此の點に於ては宣傳方面も亦同様であるが、結局資料の不足綜合的計畫の缺如は破滅的結果を齎すものである。されば自分は今此の一篇を編述する次第である。

以下にエス譯されたる佛文學作品の可及的完全なる列表を掲げようと思ふ。勿論之は相當纏つた作品に關してのみであり、主として書物の型式で發表されたるものに限る。従つてシュリ・ブリュトムの詩、乃至はアレクサンドル・デュマの小説の如きものにては各種の雜誌に部分的に譯載されたるものは之を採らない、各作品に就て著者名、佛語表題、エス譯表題、譯者名、刊行年及頁數を掲げてあるが、尙翻譯が同一雜誌上に限定發表された場合には其の誌名、號數を記載する。最後に、書名に星標を附したものは現在猶 La Librairie Centrale, 11, rue de Sèvres, Paris より入手し得ることを示す。今斯うして表を作成して見ると貴重なる作品にして、譯出の興味あるべきもの、外國人に示して興味を惹くべきものの尙逸脱あるに氣附く。以下世紀順にエス語より見たる佛文學一覽表を作つて見よう。

フランス中世紀は材料も餘り豊富でない。従つてエス譯にも乏しい。只次の二つの重要作品が譯出されてゐる。

La Chanson de Roland (Rolandkanto, D-ro Noël, 1906, 176 p.)

La Farce de Pathelin (Majstro Pierre Pathelin, J. Balliman, 1922, 64 p.) “Franca Espisto” 附録、韻文譯

之等と共に次の二つも選譯に値する。即ち F. Villon の “Roman de Renard” 及び “Grand Testament” であるが後書の詩章第 169 乃至第 350 は近く “Literatura Mondo” 誌上に其の試譯が出る筈である。

第 16 世紀及文藝復興時代は最も酷な取扱を受けてゐる。此の期を飾る主要作品は何も翻譯されてゐない。之には二つの理由がある。一つは斯くの如き作品の老成さであり一つは今日のフランス語の用法とは非常にかけ離れた用語の難解な點である。乍併前者は容易に之を解決し得る。即ちラベレの著書はモンテーニュの著書同様獨自の作品を構成するものとして、取敢へず之を除外しても大して不可はない。“Pantagruel” と別箇に “Gargantura” を譯し “L'Art de Conférer” と別箇に “De l'Expérience” を譯しても何等差支ない。尙 Ronsard 及 Du Bellay の詩の選譯も亦興味がある。

第 17 世紀 (古典時代)に對する譯業は前述諸時代よりは見るべきものがある。散文では、

Descartes (デカルト): Discours de la Méthode (Parolado pri Metodo, D-ro Noël, 1906) 此の譯文は見えてゐないが特に優秀な譯とは思へない。既に表題の譯からして誤で之は Disertacio pri la Metodo と譯さるべきである。

Leibnitz (ライプニッツ): Monadologie (Monadologio, Boirac, 1902, 32 p.) 此の獨逸

大哲人の筆に成る本書が佛語で書かれたことは一般に知られてゐない。

*Bossuet (ボシュエ): Oraison Funèbre du Prince de Condé (Funebra Parolado pri L. de Bourbon, L. Bastien, 1911, 70 p.)

此の種翻譯中模範とすべき譯文である。

Ch. Perrault (ペロー): Contes de Fées (Rakontoj pri Feinoj, S-ino P. Sarpy, 1906)

*La Rochefoucault (ラ・ロシュフーコー): Maximes (Maksimoj, G. Waringhein, 1935, 112 p.) 原文付

古典戯曲翻譯中では喜劇が顯著である。モリエールの譯は可成り豊富にある。今之を示せば Molière: Le Mariage Forcé (Edziĝo Kontraŭvola, Dufeutrel, 1904) 之はブーロニユ大會に當つて演出された。

——: L'Avare (L'Avarulo, Samuel Meyer, 1904, 80 p.)

*——: Don Juan (Don Juan, E. Boirac, 1907, 108 p.)

*——: George Dandin (Georgo Dandin, L. L. Zamenhof, 1908, 51 p.)

——: Le Malade Imaginaire (Malsanulo pro Imago, W. Velten, 1911, 93 p.) 譯は獨逸人の手に成るもので、どの程度迄正確であるかは判らない。

*——: Amphitryon (Amfitriono, Enrique Legand, 1922, 124 p.) 之はブラジル人の譯であるが、譯者はエス語學習の初期に於て此の譯業に手を染めたものである。自分は Grosjean-Maupin 氏への獻呈本を持つてゐるが、之には同氏が示唆した訂正箇所約 30 が書込んである。尙又譯に用ひられた短長格は原文の調子を甚しく歪曲してゐる。

*——: Le Misanthrope (La Mizantropo, H. Boucon, 1930, 104 p.) 此の譯はアレクサンドラン格の譯出に當り餘りに伸縮性に乏しい格を選んだ結果、文脈を過度に單化する餘儀なきに至つてゐるが、さもなくば極めて優秀な翻譯であらう。

コルネーユは未だ譯されてゐない。(自分は“Cid”の譯稿を持つてゐる。) 又ラシーヌも下記以外には譯されたものがない。

Racine: Esther (Esther', D-ro Noël, 1906) 蒔菴版刷小冊子

——: Athalie (Atali', D-ro Noël, 1906) 蒔菴版刷小冊子

之等兩譯は“Misanthrope”に於けると同様の缺點を有する。更に之等は十七世紀以後に至つて語意に變化を來した單語に付き譯が餘り的確でない結局“Athalie”の完全なる譯は次の部分譯あるのみである。“Ataljo”, C. Aymonier, 1935, “Franca Esperantisto” 誌

十七世紀の韻文に對する翻譯は寥々たる有様で、僅かに次の如きものあるに過ぎない。

La Fontaine (ラ・フォンテーヌ) Fables Choies (Elektitaj Fabeloj, G. Vaillant, 1906, 64 p.) 之は最初の三卷のみより選譯されたものである。

次に今後翻譯さるべき作品を掲ぐれば散文には Pascal: Pensées; Bossuet: Provinciales 及 Sermons の一部; La Bruyère: Caractères. 戯曲には Molière: Tartuffe; Corneille: Polyeucte; Racine: Andromaque, Iphigénie, Phèdre. 韻文には Boileau: Art Poétique など可成り興味があらう (曾て D-ro Vallienne に依る“Télémaque”の翻譯があつたが恐らく散佚して了つたのであらう。)

〔次回完結〕

エスペラントの大乘性

山口竹千代

一

親鸞は「教行信證」行卷の中で有名な「一乗海釋」で以て念佛道が大乘である所以は「唯是誓願一佛乘」なるが爲であることを論證した。私はこの「誓願一佛乘」の理念が行卷末尾「正信偈」に要約されたる眞宗七祖の傳統展開の上に實證されてあるのだと思ふ。

大乘を大きな乗物とすれば、餘他の難行道に比し念佛の易行道は、智善の人尠く愚惡の者多き地上に在りて遙かに多數の行修に適するが故に此數多の大を盛る可能性を稱して大乘と言へるものと一應は了解し得る。

而るに此大乘念佛道の傳承が「本爲凡夫」の當相を離れ三國七高僧の間に嫡流せしめられたと要約する「正信偈」文の體制は蓋し注目に値する。

二

自ら愚禿と卑謙したる親鸞の生活道であつた念佛は、智慧第一と謳歌されたる碩學法然上人から嫡傳せるものであつた。人も知る如く法然の日本佛教史上に於ける地位は弘法と並んで二大雙璧たるべきものであつた。

更に遡つて横川の源信僧都の如き、又華漢の三祖たる光明寺の善導、西河の道綽、雁門の曇鸞の如き、共に何れも當時の教學界に於ける一流拔群の巨匠であつた。而して念佛道は次々に是等の巨頭によつて傳統發揮されて來た。

殊に西天印度の論家、龍樹、天親の二菩薩の如きは正しく事實に於て世尊を繼げるものであり一は實相一は緣起の學統を押立てて名聲古今に絶すと云ふべきであつた。これをば眞宗の第一、二祖とする。

三

まことに稱名念佛の道は「彼佛願に順ずる」ものとして「本爲凡夫」の大道であり易行易修の直道であつた。善惡共に相伴ひて多々益々往生の業事を成辨する——大乘なる哉といふべきである。

而るに此念佛道が斯く大乘道として確立したる所以のものは凡衆徒らに相率ゐて唱えしが故に能く然りしものではなく、實に上述の列聖七祖が先づ念佛されしを範として愚惡等の是に倣へる所に於て始めて其大乘性が決定したといふべきであつた。

蓋し列祖が念佛の道に歸順されたるはそが佛道精進の至純樞要なる根本行でありしが爲でこそあれ、その易行易修にして劣等の根機に叶へるといふ方面からではなかつたのであらう。

四

教育勅語は臣民の道を示させ給ふ簡明なる聖典である。

然し教育勅語が眞に「臣民の道」の指南車たる權威は天皇御自ら末尾に「朕爾臣民と共に拳々服膺して成其徳を一にせんことを希ふ」と宣はせられたる一句によりて生ず。

教育勅語に於ける臣民道は、そが普遍至要なる人倫の根本を示させ給ふてあるによりてその

名を獲得せず、實は爲政者、先達者等が率先して此道を實踐窮行したる時に始めてその名を確立す。

教育勅語の臣民道は大臣大將博士になる爲の特定の順路ではない。しかしこの臣民道を仰ぎ履行せざる大臣、大將、博士は却て國家社會を毒する者である。此臣民道は人間に通じたる道である。あまねく衆庶の遵守すべき道ではあるが、しかし此道は大臣、大將、博士が先づ是に歸命することなき時は一片の空談義に歸し終りて實際に「道」としての權威を失墜する。教育の本義は智育や育技の助長にあらず、一に此「臣民道」の體得に在る。

即ち「臣民道」の大乗性を決定するものは教育勅語の最後に「爾臣民とともに」と宣へる一語である。

五

エスペラントは易修の言語である。それは中立的國際語である。通信交通機關が極度に發達し各國の經濟通交關係が愈頻繁を加ふる今日以後の世界の必然の要求にさきがけて生れた人造語である。

しかしただそれだけではエスペラントは完全なる發達を遂げて全世界を益する使命を果しおほせることはむづかしい。

エスペラントの存在は佛教行學上の念佛の如きものである。又人倫道德上の臣民道の如きものである。

エスペラントは如何にして、それが本來の使命を果す——即ち言語としての大乗性を獲得し得るか。

私は日本民族のやうに新鋭強盛な民族が之を採用し支持し流通せしめることによつて始めてほんとうに世界の中立語としての面目を樹て得るのだと思ふ。

かつて又エスペラントは逸早く左翼の人々によつて利用せられた。しかしそれはエスペラントにとりて健實なる發達の助縁とはならぬ。左にあらず、右にあらず、根本中を主張する佛教思想の健全なる藥籠を通過せしめることはエスペラントの價值を決定する大きな鍵である。

佛教徒は擧つてエスペラントを理解し支持せんことが望ましい。八正道の第三にも「正語」と指示せられ「大無量壽經」には「和顏愛語」といふてあり、まことにエスペラントの大乗性は、此日域の佛教徒によりて決定されなくてはならぬと考へられる。

Robert Kreuz 氏を惜む

UEA-Komitatano 進 藤 靜 太 郎

UEA の direktoro Robert Kreuz 氏が前日再發の kongesto の結果一月卅一日の夜逝去された旨二月六日付の航空便による UEA 公報に接した（尙會頭 Bastien 氏からも同様航空便を以て五日付親書があつた）。一昨年末突然の發病に氣遣はれたが幸い恢復、昨夏ローマに於ける大會及び地中海廻遊の船旅に以前にも優る健康を得たように見受けられたとの事であつたが今回はたつた一日の事で終に起たず誠に惜しい事である。

埋葬は二月四日ゼネヴァに於て行はれパリからは止むを得ぬ所用の爲列席出來ぬ Bastien 氏に代つて Movo 氏が馳せ付けた。

顧れば1933年の夏ケルン大會に Esp. 運動の新協約が結ばれて以來、Kreuz 氏は全く我運動



の世界的中軸であつた。殊に一昨年ストックホルムの大會からは獨力よく UEA の direktoro, 機關誌 Esperanto の redaktoro の二大重責を引受けながら、以前國際中央委員會主事の時代より續けて來た對外的任務をも苟くせず一人三役を兼ねて非凡の努力を重ねて來たのであつた。然しこの無理の結果とも云ふべき一昨年末の發病以來其原因を除くべく劃策し、幹部會に提出すべき案を練りつゝあつたとの事で、悼しくも臨終の枕元に其の覺書が遺されてあつたとの文面は涙なくして讀み得ぬ次第。彼に協力して其の對策を支持しつゝあつた委員達の努力も今は徒になつたが、せめて

彼の遺志を繼ぐべく遠からず立案を見る筈。

更に特筆大書すべきは、この UEA 革新の非常時に當つて、昨年十月末を以て了る年次會計は積年の弊を破つて終に赤字を克服し、新制度の前途に曙光を見出した彼の經營努力である。新しい積極的立案も茲に始めて具體的な可能性を見出し得る理で、愈々と云ふこの春時を待たずして逝つた彼もさぞ心残であらう、とまれ、この基礎を得て完全な新 Jarlibro も舊に優る復活を見るべく、之によつて因循姑息な skeptikuloj を見返すのも遠くはあるまい。殊に新組織に参加の Landaj Asocioj の内で最も健實な英國、佛國、瑞典のそれは益々本部とその連絡を緊密にし協力を惜まず積極的に働きかけて居るから、彼の靈も以て瞑すべきであらう。

尙彼は 1894 年六月二日ライン河畔 Mainz 市に生れ、十五歳の時既に Esp. に投じ、大戰後は西南獨逸 Esp-Ligo を復活せしめ Revelo として有名なライン・ウエストアリヤ Esp-Ligo との連繫を全くしてフランクフルト市定期市 Esp. 使用の指導に當り、更に専心我運動に盡さん爲高給と好地位を擲つて Heroldo 紙の前身 Esperanto Triumfonta 紙に入つた。1925 年、Merchant 氏の招きによつて國際中央委員會書記となり、次いで主事に昇任した。經歷の然らしむるところ九ヶ國語に通じ戰後の諸國際會議の名通譯者たり、特に速記術に群を抜き一分間 240 silaboj の記録を持つて居り Debata Stenografio Esp-a laŭ Stolze-Schrey 1926 其他著書も少なくなく年次大會の Protokolo に残した功績は大きい。又政治經濟上の用語に造詣淺からず、時のイタリア首相 Nitti の Eŭropo ĉe Abismo の譯や商業用語辭典等の貢獻によつて言語委員に列せられ、リヒテンシュタイン國情 Esp. 宣傳の功によつて同國 Komerca Konsilanto に任ぜられて居た。

我國に於ても知己少なからず、殊に Esp. Triumfonta 紙在任中我各地新聞雜誌に Esp. が採入れられるや協力を常に忘れず、昨年名古屋大會の Prezidanto 山田弘氏とも此故を以て舊知の由。筆者も亦小坂氏の後任としてに關係して RK 以來彼に教えらるる處甚だ多く 1929 年ペシユトに於ける第 21 回大會には親しく彼の萬能振に接し得たのであつた。

就中速記・maŝinskribado 等の確實な技能に基く廣範圍な彼の事務能力こそは他の點に於ては殆ど間然する餘地の無い我國 Esp-ujo に於て最も缺けて居るところであつて、此意味に於て彼こそ我々の間にも惜まるべきである。

動詞 FARI の用法

(3)

K. OSSAKA.

§ 3 (a) Absoluta uzo: „Fari“ = agi, kondukti (爲る)

La transitiva verbo „fari“ estas iafoje uzata netranaitive, t. e. en absoluta formo sen

akompano de rekta komplemento:

Jen tiel oni **faras** (=konduktas) en societo bonorda. (Rt 56/2) 上流社會のやり方はこうなのです

Dio ĝuste **faras** (=agas), neniam eraras. (P 133) 神様のする事にはそつがない

Ĵritiki estas facile, **fari** (=efektivigi) estas malfacile. (P 781) 云ふ(批判する)は易く行ふは難し

Rimarko. Kelkaj transitivaj verboj estas uzataj netransitive kun la rekta komplemento subkomprenata, dum netransitivaj verboj en Esperanto povas iafoje akompani akuzativon anstataŭ prepozicio, tiel donante al si aspekton de transitivoj:

- { Mi *tranĉas* viandon. 肉を切る……Transitiva uzo.
- { La tranĉilo bone *tranĉas* (ĉion). よく切れる小刀……Netransitive uzata.
- { Li *rigardas* al la ĉielo. 天を仰いでみる……Netransitiva uzo.
- { Li *rigardas* la bildon. 繪を眺めてみる……Transitive uzata.

Ankaŭ same ĉe la absoluta „fari“ (=fari faron):

- { Kaj la Eternulo **faris** laŭ la vortoj de Moseo. (El 8-9) 神はモセオの云ふ通りに爲た [netransitive]
- { Kaj Moseo **faris**, kiel la Eternulo al li ordonis. (Lv 8-4) モセオは神が命じた通りに爲た [netransitive]
- { Kaj Aaron kaj liaj filoj **faris** ĉion, kion la Eternulo ordonis per Moseo. (Lv 8-36; ankaŭ Lv 24-19) アロン及びその子は神がモセオを通じて命じた通りに爲た [transitive]

EKZERCAJ EKZEMPLOJ:

Oni **faris**, oni ĉesis, kaj ni ĉion forgesis. (P 1155) 人にされたこともそれがやめば忘れて了ふ (Pasinta doloro for el memoro と同義の諺)

Du homoj povas pli multe **fari** ol unu. (F 41/18) 二人の方が一人よりも餘計やれる

Dirite, **farite**. (P 843) 云ふが早いかするが早いか

Ricevinte jesan respondon de sinjoro Craggs, sinjoro Snitchy **faris**, kiel li diris. (BV 39/11) C氏がウンと云つたので S氏は自分の云つた通りにやつた

Vi **faris** kiel vi devas **fari**. (FK 46/10) 君は當然な事をしたのだ

La trompantoj **faris**, kvazaŭ ili vestas al li ĉiun pecon de la novaj vestoj. (FK 23/8) 詐偽師はありもしないのに新製の服を一枚一枚彼に着せる様な眞似をした。

Kiu multe parolas, ne multe **faras**. (P 544) 多々辯ずる者は用を辨ぜず

Estas certe, ke vi diras nur por **fari** spite. (Rz 41/18) わざと意地になつて (逆ふために) 云つてるのはわかつてゐるよ

He, kiel malsaĝe! kiel abomene, kiel nepardoneble malsaĝe! Ne tio ĉi estas la ĝusta maniero! Mi **faradis** alie. (Rt. 86/6) まアなんて馬鹿な, なんて鼻つまみもならぬけしからん馬鹿! そんなやり方があるものか, おれはそんなやり方はせん。

§ 3 (b) **Fari bone** = (1) agi bone (うまくやる); (2) **fari bonon**, efiki bone (よくきく, 効力がある)

Vi **bone faris**, ke vi rifuzis lian proponon = Vi *bone faris*, rifuzante lian proponon = *Estas bone*, ke vi rifuzis lian proponon. 彼の申込みをことわつたのはよかつた

Vi **pli bone farus**, se vi rifuzus lian proponon = Vi *pli bone farus*, rifuzante lian proponon = Vi *pli bone rifuzus* lian proponon = *Estus pli bone*, ke vi rifuzus lian proponon. 彼の申込みなんかことわつた方がよかつたのに

Li estis tre laca, kaj la profunda dormo **faris bone al li**. (=refreŝigis, plifortigis lin.) 彼は疲れてゐたがぐつすり眠つたのですつかり恢復した

EKZERCAJ EKZEMPLOJ:

Li de tiam paciĝis kun sia fratino. Tio ĉi tuj **bone faris al li**. (BV 70/12) 彼は妹と仲直りをしたのだが、そのためすつかり元氣がよくなつた (=tio ĉi estis saniga por li)

La reĝisoro orde vin regalos kaj **bone faros**. (FK 78/9) 舞臺監督はお前等にガツチリ御馳走していゝ目にあはせて呉れるぞ (實は反語: ひどい目にあはすぞ)

Vent' en ĝusta momento **faras pli ol arĝento**. (P 1070) 欲しいと思ふ時の追手(風)は金銀よりもきゝめあり (困つてゐる時の助舟は何より有難い意の諺)

Kaj kiel 'ajn riĉa mi estas, mi **farus pli bone**, se mi edziĝus kun senartifika kaj bona kampulino, anstataŭ preni edzinon, kiu tenas sin pli alte ol mi. (GD 5/-7)

どんなにおれが金持だからとてお高くとまつてゐる妻などめとらないで手練手管のない善良な田舎娘と結婚した方がよかつたのだつた (=mi pli bone edziĝus....)

Sed antaŭ ol viziti lin, **faros prudente** (=estos prudente), se vi bone eldemandos pri la konduto lia (H 41/10). 彼の許に行かぬ内によく彼の行狀を探ぐつて置くが分別ぢや

En la kuirejo sinjoro Britain post la vespermanĝo **faris al si oportune**. (BV 44/17) 臺所でブリテン君は夕食をすませてから打ちくつろいだ。

§ 4 (a) „Fari“ kun samorigina komplemento: „Fari faron (=agon)“

Kiel ni jam aludis en la Rimarko, § 3 (a), la absoluta „fari“ estas nenio alia, ol la ne transitive uzata formo de la transitivo „fari faron“:

Li **faris hontindan faron** (=agon) = li *faris hontindaĵon* (=hontindan agon, aŭ aferon) = li *faris* (=agis) *hontinde*. 彼は卑劣な行爲を爲に

Li **faris tian faron** = li *faris tion*, aŭ *faris tian aferon* = li *faris* (=agis) *tiel*. 彼はそんな事をした

[註] Verba konstruo kun samorigina komplemento とは働詞が己と同語源の komplemento (目的語又は補語) を伴ふのを云ふ。例へば: Li *sonĝis belan sonĝon* 美しい夢を(夢)見た; Li *mortis per nenatura morto* (又は *mortis nenaturan morton*) 非業の最後(死)を遂げた(死んだ)。

Kaj mi ekrigardis ĉiujn **farojn**, kiujn **faris** miaj manoj. (Pr 7/-4) 我が手を下した諸々の行ひを顧みた

Viaj okuloj vidis ja ĉiujn grandajn **farojn** de la Eternulo, kiujn Li **faris**. (Re 11-7; *ankaŭ vidu*: Re 14-29; 34-12) 汝の目は神が爲給ふた諸々の偉業を見たのだ

Farita via faro, nun adiaŭ, mia kara. (P 747) 用事がすんだらおさらば (お拂箱)

Se ŝi ĝin akceptus, ŝi **farus agon** (=faron) nehonestan. (M 68/21) = ŝi *farus* (*aŭ agus*) *nehoneste*. それを貰つたら不正直な事をした事になるのだ。

Vi jam **faros per tio agon** eksterordinare gravan. (OV 356/29) さうすれば非常に重大な事をした事になる。

Vi ne sole ne **faros agon** justan, sed vi ankaŭ ne forigos sur tiu terpeco la kaŭzon de estonta batalo. (OV 354/34)

正しい行爲をなさざるのみならず此の地方に於て未來の戦の原因を除去しないことになる。

Ĉiu privata espeantisto povas havi tiajn konvinkojn aŭ **fari tiajn agojn**, kiajn li volas (=agi tiel, kiel li volas) (OV 378/8; *ank. vd*: GD 33/13) エスペランチストは個人としては誰も己の欲する信念を持し又行動をしてよろしい。

Aŭtentika Teksto de Z.

KAWASAKI-N.

Z.-verkaro の正確な teksto がほしい。誤植を正した、他人の補筆を除いた aŭtentika な teksto がほしい。この目的を達する最善の方法は Z. の原稿をみることだ。しかし Z. の原稿はどれだけ残っているだろうか？ 誰のところにあるのだろうか？ Rabistoj が Esp.-Muzeo, Wien にあり, Wüster が Biblio を讀んだこと, Enciklopedio de Esp. に Waringhien が Fabeloj について「Sed kun teksto tre duba: la manuskripto estis laŭ mia konstato, en pluraj lokoj korektita de iu, kaj la preseraroj svarmas.」と書いた以外私わなんにも知らぬ。しからばやむをえざる次善の方法として、流布本を讀んで常識上不合理と思われる場所を誤植でないかとし（が grego を arego の誤と早合點わいかん）、もし版に種々あるときわ、それらを對抗して verŝajno を求める。Diverseco のあるところわ、どれかが、あるいわ全部があやしいと想像される。各版が同じである場所も原稿と違っているところがあるかもしれぬ。版の種々に 2 のことを考えねばならぬ。第 1 わ Z. 自身が變更したもの。例：Hamleto. 1894 の單行本と現在我々が手にする Hachette (Esperantista Centra Librejo) 版とかなりの相違があること、Beaufront の補筆があることわ Waringhien が Lingva Kritiko, dec. 1933 に述べた。第 2 わ出版所の相違、出版年度の相違で、Z. の意志でもなく、出版者の意志でもなくしてはいりこむ誤植のためだ。最善の方法たる原稿による校定がどれだけ行われたか私わ知らない。日本でわできないことだから、ヨーロッパでどんどん發表してくれねばならぬ。Originala Verkaro わ Z. の plumeraro でもそのままかけ、下に註がある。しかし Dietterle 自身でみた leteroj などわ正確であろうが、本全部が fidela だと思えない。Batalo de l' Vivo の Antaŭparolo 中 Orig. Verk. にわ tiel mi cedis al ilia deziro とあるが、單行本にでている原稿の寫眞中でわ私わ tial... と讀む。Fabeloj II にわ「La vorto mankis en la manuskripto; ĝi estis aldonita de la gefiloj de Dro Zamenhof」の註がときどきある。次善を要するに次善だ。Verŝajno わかならずしも vero でわない。いくら統計をとつたところで、100 中 99 まだが a であることがそれで説明できても、この不明の 1 が a であるとわ原稿なしにわ斷定ができない。北極星わ北極の近くを廻るが北極そのものでない。原稿なしで各種の版を比較校定した大きな業績わ Studejo de Zamenhofa Gramatiko, Tokio の Paroladoj だ。Paroladoj わもつとも多くいろんなところで出版されているから、この目的にわもつともふさわしい。1930 に貧しい材料にもかかわらず勇敢にもこれを試み、その後必要な材料を得ることに力め、1932 に再版をだした。上記の Hamleto もこの後だ。その他にわ Orig. Verk. 中の leteroj によつて W. Bailey が Fund. Krest. の各版の異同を Z. に再三注意したことを知るだけ。Fundamento de Esp. 中の Ekzercaro が後の版と第 1 版と違つたところがあるなんか悲慘な滑稽だ。Fabeloj わ少數の例

外を除いて Plena Kolekto で始めて發表されるものだが、La Esperantisto (梶發行), mart., apr., okt. 1930 に佐々城, Tabeloj de Preseraroj あり。譯文のときわその原語によつて誤の正されることもある。Plena Vortaro 採用の orvelki (Fabeloj I 中) を forvelki だと Butler (British Esp.-isto, jun. 1935) をゆう。これに佐々城がすでに注意したのに、P.V. 第2版でも改めてないのだ。原稿をみることのできる Waringhien がはやく Fabeloj の aŭtentika teksto をだしてくれるとよい。La Sankta Biblio 中の Genezo と Hachette 版のそれを較べること、後者を持つていない人に役にたつだけで、Z.-teksto の aŭtentikeco にわなにものをも加えない。域戸崎, Z.-Legolibro を無斷で變えたところがあるとか、初等讀本じやあるまいし、Z. を忠實に示すほうが、この書の使命たる高等教育上當然と私を考へる。(20, jan, 1936)

(附記) 舊約聖書の原稿を Warden の遺言執行者達の手で保管されているとのこと。ただし Hachette からすでにでた部分も Z. を改めて原稿を送らなかつたと。以上 W. Bailey による。

(18, marto, 1936)

Plena Gramatiko 紹介 (3)

[Kalocsay, Waringhien 共著 Plena Gramatiko の本文を要約して紹介す。紹介者の批判は脚註の貌でなす。]

岡 本 好 次

II. Vortfarado (造語法)

A. Vortkonstruo (語構成)

7. **Neŝanĝebleco de elementoj** (語要素の不變性):—エス語の語構成 (vortkonstruo) は不變の elementoj を並べることによつてできる。これら vortelementoj を vortelementoj (語要素) 又は lingvoelementoj と名づける。この elementoj の不變性の故にエス語を aglutina lingvo とよぶ。

8. **Divido de l' lingvoelementoj** (語要素の分割):—語要素を次の三種に分つ

1. **語根 (radikoj)** とは或種の概念 (koncepto) 即ち事物 (objekto) 又は觀念 (nocio) を示す音節の集り (hom, bel, kur).

2. **接字 (afiksoj)** とはそれの附加される語根の意味に色合をつけ又は修正するが決してその語根の文法的性質又は語構成の機能に影響しない音節の集り。

而して radikoj が相互に結合する時は語合成の規則 (vortkunmetaj reguloj) によるが接字に於ては一般的の規則が作用しない。接字を分けると

(a) **接尾字 (sufiksoj)** [et, eg, aĉ, um]—その中初の三種は前の語根の文法的性質に何等影響しない。それで之等を diafanaj とよぶ。um は前の語根から新語根をつくる様な風に作用する。

(b) **接頭字 (prefiksoj)** [bo, eks, ge, mal, mis, pra]—これらは語合成の規則によらずして後續の語根に結びつき恰も變化した意義をもつた新語根をつくる。

エス語に於ては語合成に於て語根と同じ様に働き語合成の規則に従ふものをも接尾字とよんでゐる。併しそれらは語合成に於いて一層簡便な語根代用物である。例へば il (instrument), ec (kvalit), ist (profesiul), an (membr), em (inklin) 等である。接頭字にも同様のものがある。

る。例へば *ek, dis, re, for* 事實これらをも接字とよぶのは誤であり混亂をきたす。語構成の見地からすれば之等は普通の語根と同じに分類すべきである。しかし多少の特殊性があるのでここでは準接字 (*afiksoidoj*) 即ち準接尾字 (*sufiksoidoj*) と準接頭字 (*prefiksoidoj*) とよぶ。^{*}そして他の接字を之に對して眞接字 (*veraj sufiksoj aŭ prefiksoj*) とよぶ。エス語に於て語誘導 (*derivo*) についてはこの眞接字についてのみ云ふべきで之等を誘導字 (*deriviloj*) とよんでもよい。

3. 語尾 (*finajoj*) とはエス語の名詞動詞形容詞及副詞(原始副詞を除いた)の末尾におかれた音を稱す。即ち *o, a, e, i, on, an, en, as, is, os, us, u* である。語尾は他の語尾の前におく(二三の例外をのぞき)ことができない。かかる場合は *sinonima sufiksoido* で置きかえられねばならぬ。猶語尾は文法的機能をもつてゐる。

9. **Memstareco kaj solstarivo** (自立性と獨立性):—語要素の自立性 (*memstareco*) はそれらの語内部での機能について有効であつて各要素は単一の獨立語として用ひられることを意味しない。この見地から

1. *Elementoj kompletigendaj aŭ finajbezonaĵoj*:—語根及接字がそれである。これらは獨立語としては語尾を必要とする。

2. *Elementoj solstarivaj*:—相關詞、前置詞、接續詞、原始副詞 (*tre, tro* 等)、數詞、間投詞等それである。語尾をとることもできるが語尾なしにも自立 (*staras solaj*) する。

3. *Elementoj kompletigaj*:—語尾 (*o, a, i, e*) がそれである。之は獨立して存在しない。その機能は語根から語をつくり又は *solstarivaj elementoj* から語をつくる。

10. **Vortkategorioj kaj radikkarakteroj** (語の範疇と語根の性質):—エス語に於ては他の言語と同じく次の如き文法的範疇(品詞)にわかれる。

1. 名詞:—*ideo* (具象、抽象、動作)の名を示す。

2. 形容詞:—その語によつて表現された *ideo* が他の語と關聯し且その性質又は關係を示す。

3. 副詞:—その語によつて表現された *ideo* が動詞に關聯し動作の狀況又は方法を示し又は形容詞又は他の副詞を限定するものとす。

4. 動詞:—或る *tempo* と *modo* に於て遂行される動作又は被害をうける状態を示す。

5. この外に關係詞 (*rilatvortoj*), 前置詞、間投詞、接續詞がある。エス語に於てこれらの語は獨立的で語尾をもたぬ(語尾をとることもできる)。

次に *hom* といふ語に於て我々は事物の名を想起する。同様に *dom, tabl, patr* (以上具象物) *scienc, muzik* (以上抽象物)等に於ても。

bel, bon, klar 等に於てはある事物又は想念の性質を想起する。

kur, bat, ag, perd 等に於てはある *tempo* と *modo* に於て遂行される動作又は被害をうける状態を想起する。

それ故 *hom, dom* 等に *o* なる語尾をつけ *bel, bon* に *a* をつけ *kur, perd* に動詞語尾をつけるのはおしつけがましく考へられる。

かくて想念の名を想起せしめる語根は名詞的語根 (*radikoj substantivaj*) とよび性質を想起するものは形容詞的語根 (*rad. adjektivaj*) とよび動作又は状態を想起するものは動詞的語根

^{*}) 從來 *sufiksoj* 又は *prefiksoj* として扱つてゐたものの中を各二種類にわけたのは異色。之等については猶後に説明がある筈。批判は後にまはす。

(rad. verbaj) とよぶ。^{*}

注意： 上記三つの外に第四の副詞的範疇に属するものがある。例へば *subit, nepr* 等それである。しかし造語に於てはこの第四の *kategorio* は無視してよい、何となればこの *kategorio* に属するものは造語に於て形容詞的語根と同じ様に働くからである。

11. Samelementaj kaj malsamelementaj vortoj (同要素語及び異要素語):—*homo, domo... bela, bona... kuri, sidi...* は語尾が語根の性質と同一であるから語尾は既に語根がもつ *vortkaraktero* を語根に與へるにすぎぬ。

ino, ulo, ejo, ingo, ebla, ema, inda, igi, iĝi の如き *sufiksoidoj* に於ても同じ事が云へる。

文法的にこれらの語に於て語尾が餘分であるのではない、何となればそれは主格を示し又動詞に於ては *tempo* や *modo* を示すのだから。併し造語法の見地からはこれは *pleonasma* である、何となればそれは語根の意味に何物をも附加しないから。かくの如く語根と語尾が同じ *karaktero* のものは *vortoj samelementaj* とよぶ。

次に *belo, kuro, homa kura, marteli, pravi* 等は語尾の *karaktero* は語根の *karaktero* と一致しない。これらにおいては語尾は *pleonasma* でない、それはそれ本來の意義を語根の意義に附加するものである。即ちここに於て語尾は獨立の機能をもち獨立の *elemento* としてみとめられる。即ち語尾は接尾字の機能をもつ。これらの語を *vortoj malsamelementaj* とよぶ。

前者の場合の語尾を *finajo pleonasma* とすれば後者では *finajo proprafunkcia* とよべる。

12. La propra signifo de l' finajoj (語尾の本來の意義):—

(a) 獨立要素としての *o-finajo* は性質又は動作の名を示す。これは形容詞的語根の後にあつてはその性質は他の *ideo* にかかるのでなく獨立的に抽象物として示す。動詞的語根の後にあつてはその動作を抽象物として示し又はその動作の具象的事物 (*skribaĵo* の代用として *skribo, konstruaĵo* の代用の *konstruo*) を示す。*pleonasma* と *proprafunkcia o-finajo* の間には相違はなく兩者とも想念又は事物の名を示してゐる。

(b) 獨立要素としての *a-finajo* はその附加された語根が他の語と關聯しその語の性質又は關係を示す (*homa sento, homa mano*)。 *pleonasma* と *proprafunkcia a-finajo* の間には相違がある前者は常に性質を示し後者は性質の外關係所屬を示す (*reĝa sinteno; reĝa palaco*)。

(c) 獨立要素としての動詞語尾は語根の示す意義をもち主語の動作のおこつたこと又は狀態の繼續を示す (例: *marteli: agi karakterizite de martelo; gastu: esti en stato karakterizita de ideo gasto; pravi, nigri: esti en stato karakterizita de prav, nigr.*)

13. Finaja pluformado:—

samelementaj vortoj は語尾を變更するだけで新しく形成できる。即ちこれらの語尾は *pleonasma* であるから新語尾をとるにはその語尾が脱落すればよい。かくて *samelementa vorto* が *malsamelementa vorto* となる。 (*martelo*→*marteli, varma*→*varmo* 等)。

次に *malsamelementaj vortoj* からこの上新しい語を形成するには簡単にゆかぬ。即ち *malsamelementa vorto* に於て語尾は *proprafunkcia* であるから固有の意義をもつてゐる。だから語尾だけを變更したのではこの意味が失はれる。故にこの意味を保存するには語尾そのも

^{*}) こういふ風に語根に品詞別を考へることは de Saussure の研究に始まり非常に論理的である。之が Wüster 等にとりあげられ又 Kalocsay によつてうけつがれた。この de Saussure の理論は日本でも早くから小坂氏によつて紹介されたものである。

のを保存せなければならぬ。併しそれでは不便な形となるのでこの脱落すべき語尾を特別の sufiksoido (ec, ad) で示すことにする。

例へば marteli (名詞的語根 martel+動詞的語尾 i) に於て i は動作の elemento を示してゐる。この動作を示すには i を o で變へたのではだめである。何となれば martelo としたのではもはや動作を示さぬからである。ここに於て i に代る sufiksoido の ad (ag の意味をもつ) におきかへねばならぬ。即ち martelado となる。

同様に homa の意を名詞にするには a の代用たる sufiksoido ec (kvalit の意) を用ひて homeco とせねばならぬ。

14. Pravigo de l' kategorio divido: — 上述の如く語を kategorio に分けることが正しいといふことを詳細にここで説明してゐるがここには省略する。

15. Neceso kaj sufiĉo: — de Saussure によつて立てられ Akademio で承認された principo de neceso kaj sufiĉo は誰もしる如く次の様である。

a) *Principo de neceso* : en konstruon de vorto oni devas enkonduki ĉiujn vortradikojn, sufiksojn kaj finaĵojn necesajn por elvoki klare kaj plene la ideon reprezentotan de tiu vorto.

b) *Principo de sufiĉo* : se la ideo tiamaniere esprimita estas jam bone kaj nekonfuzeble komprenata el la kunteksto sen iu el la sufiksoj uzitaj, tiu ĉi sufikso povas esti elĵetata kiel neutila kaj nenecesa.

これらの principo の條文は誤解され易い。これはむしろ

En la konstruon de vorto oni devas enkonduki ĉiujn vortradikojn, afiksojn kaj finaĵojn, kiuj necesas, sed ne pli ol kiom sufiĉas por elvoki klare kaj plene la ideon reprezentotan.

Noto. Por elvoki la ideon reprezentotan, oni povas, precipe en la poezio, sin helpi per la kunteksto, inter certaj limoj, uzante la sencan elastecon de la finaĵoj.

の様に變更されるとよい。それにしても上述の principoj を Akademio で採用したことは陰に kategorio divido の採用をふくむものとみてよい。

16. La senca elasteco de la finaĵoj: — 語尾は意味の伸縮性 (elasteco) をもつてゐるがそれは無制限でない。

名詞語根の後の o-finaĵo は語根の意味に従ひ具象物即ち persono (domo, nomo) を示し又は抽象物を示す。

形容詞的語根の後の o-finaĵo は第一に抽象物 (belo, fiero) を示し又或事物の性質としての抽象物を示す (ŝia belo)。又 kunteksto の助によつてその性質の具象的表現物を示すこともあるが之は寧ろ韻文に於てみとめらるべきものであらう (belaĵoj の意に beloj とする)。又韻文に於てはその性質をもつた persono をさす事がある (belulo の意に belo)。

動詞的語根の後の o-finaĵo はその動作の名を示す (iro, skribo)。又 kunteksto の助によりその動作の具象的表現物即ちその動作の結果生じた物を示す (konstruaĵoj の意に konstruoj)。

形容詞的語根の後の a-finaĵo は pleonasma であつてそれは唯性質のみを示す。

名詞的語根の後の a-finaĵo は性質 (reĝa sinteno) と關係 (reĝa palaco) とを示す。

動詞的語根の後の a-finaĵo は第一に關係を示す (ama letero)。併しそれは又性質をもしめす (ama koro)。ここに於てこれは又 participo の代用となる。即ち kuranta rigardo の意に

kura rigardo, ĉagrenita koro の意に ĉagrena koro, fiksita salajro の意に fiksa salajro.

動詞的語根の後の i-finaĵo は plenasma である。それでこれは動詞的語根の本来の意味を何等變更せしめない。それ故韻文に於ても他動詞が自動詞になることはない。

名詞的語根の後の i-finaĵo は 1. agi per (marteli, brosi), 2. funkcii kiel (reĝi, tajlori), 3. agi karakterizite de (ondi, ordi) を示す。

形容詞的語根の後の i-finaĵo は esti ... a (nigri, ruĝi, kontenti) を意味する。(これは決して igi ... a 又は iĝi ... a を示すことはない。) [次號は B. Vortkunmeto の紹介]

Jane Eyre の 戀

エスペラント譯泰西文學鑑賞・1

萬 澤 ま き 子

一ヶ月に亘る婚約の期間は夢の様に楽しく過ぎた。とはいへ、その間私達が蜜の様な愛の囁きを交した譯ではない。私はあらゆる愛稱や愛撫の言葉を彼の口から封じ去り、彼の歌ふ切々たる愛の唄をすらも嘲笑で答へたりして、始終彼を焦燥の中に置いた。それが彼の様な誠實ではあるが移氣な男性の愛を引止めて置く一つの方法だと思つたから。愈々結婚が明日に迫つた日、私は一日中雲の様な故知らぬ不安にとりまかれておびえながら過した。その前夜、私は恐いものを見た。物凄顔をした女が私の箆笥の中の結婚衣裳のヴェールをずたずたに引裂いてあの惡魔の笑ひを笑ひながら私の顔の上におひかぶさつて來た。私は恐怖に氣を失つて倒れた。夢であつたらうか？然し再び意識をとりもどした時私は床の上に踏みにじつてあるヴェールをみた。この恐い経験を S-ro Rochester に物語つた時、彼は私と同じ様に蒼ざめた。その夜私は私の寢室をさけて、意義深い結婚の前夜を小さな Adèle のベッドの中でまんじりともせずに明かした。

結婚の朝。花嫁の装ひもそこそこに、狂氣の様にせき立てる花婿に手をとられて、見送りの誰彼に挨拶する暇もなく邸を出た。何かに追ひ立てられる様に彼は私を荒々しく引きづつて程近い教會へ馳けこんだ。暗い祭壇の前で私達が嚴かな結婚の誓ひを立てようとした瞬間、暗がりの中から重々しい男の聲がそれに異議を申立てた。S-ro Rochester は激しく戰慄して私を強く搔き抱いた。男の一人は恐怖の夜の Mason であり、他の一人はロンドンの辯護士 S-ro Briggs であつた。

S-ro Rochester には既に妻がありしかも、その妻は現在彼の邸に生きてゐるといふ。彼は法も神も宥さない二重結婚を敢えてしようとしたのだ。總てを觀念した彼は私達一同を邸に伴つた。四階の一室、そこに彼の妻は鐵の檻の中で獸の様に吠え猛り、惡魔の笑聲を立ててゐる。それは先夜私を襲つた怪物に相違なかつた。Grace Pool はこの恐るべき囚人の看守だつたのだ。

それは消すことの出来ない若き日の過失であつた。世間も知らず思慮も淺かつた彼は肉親の父や兄や周囲の者達に謀られて印度で Mason の美しい妹と結婚した。結婚後初めて Mason の一家が三代に亘る癲狂と白痴の家であることを彼は知つた。間もなく彼の妻も淫蕩な生活と飲酒癖の爲に狂氣して一個の獸となつた。彼はそれを Thornfield の邸に匿つて、15 年の間理想の女性と眞實の愛を求めて歐洲の大陸を放浪した。Adèle の母もその歴史の中の一人であつた。そうして遂に彼が辿り着き求め得たものは Thornfield の草むらにひそんだ野ばらの様

な Jane Eyre であつた。小さな、妖精の様な不思議な女。その女の謙遜な愛を自分の狂氣の様な愛と同じ程度に煽り立てる爲に彼はあらゆる手段を講じた。傲慢な F-ino Ingram の件もその一つであつた。そして遂に彼は殆んどそれに成功しかけてゐたのである。

私は彼の永い物語を疼く心と共に聞いた。私は以前にもまして彼を愛する。彼なしに生きることが私に出来そうにもない。でも私はそれをしなければならない。彼にこれ以上の罪惡を犯させない爲に。その夜私は身一つで秘かに邸をぬけ出した。寢もやらず室内をいらいらと歩き廻つてゐる彼に、聲なき別れの言葉を熱い涙と思慕と共に送つて。

二日間を馬車にゆられて遠くの村へ來た。それから又二日の間、食物もなく、野に寢、村をさまよひ四日目の雨の夜私は遂に力つきて地に倒れたまま苦しみ多い地上を去る時を待つた。併しそれは善良な人々の住む家の前であつた。私は救はれて三日間を熱と昏睡の間にすごした。

其處は Moor-House と呼ばれてゐる人里に遠い山の中の家であつた。美しくて善良で教養高い Diana と Maria 姉妹と村の牧師である兄の St. John とが老いた女中と共に平和なつましやかな生活をしてゐた。私はみんなを心から愛し尊敬した。私は私の經歷を絶対に彼等にもらさず、名前すらも明さず變名で通したが、彼等は私を信じ愛し、又教へ導いてくれた。その平和な生活にも別れる日が來た。彼等は彼等の父の死の爲に一時その故郷の家に集つてゐたにすぎなかつた。再び兄妹が夫々の職場に歸る日が來たのだ。兄は村の牧師館へ、妹達は遠い國へ家庭教師として。では私は何處へ？

私が救はれてから一ヶ月の後なつかしい Moor-House は釘付けにされた。私は St. John の世話で貧しい少女達の爲の學校を村に開いた。それはささやかな建物で、それに續いた私の住居も粗末な小屋でしかなかつたが、私は心から満足し感謝した。

開校の日の夕方、私は St. John と村一番の資産家の獨り娘 F-ino Oliver の訪問を受けた。F-ino Oliver は美しくて純眞でさながら天使の様な少女であつた。彼女のつぶらかな瞳がどんなに惚々とギリシャの彫刻の様に素晴らしい St. John の横顔を眺めるか、又この匂ふばかりの花の前でどんなに St. John が混亂し頬を赤らめるか、私はよく知つてゐる。併し St. John は鐵の胸の中に氷の心臓を持つ男であつた。彼は理性と超人間的に強固な意志とでその情熱を制して、常に彼女の愛の瞳に脊を向け續けてゐる。

新しい仕事は非常に困難であつたが努力の跡は眼にみえて來た。初めは小さな獸としか思へなかつた貧しい少女達が一日一日と人間らしく成長して行つた。村中の人達の感謝の中で私はこの生活に生甲斐を感じ始めた。そうした 11 月の始めであつた。St. John は私の小屋を訪れて私の描いたスケッチを見てゐる中、突然何かに激しく驚愕して惶惶として立去つた。

その翌日の夕方、物凄く吹雪の中を St. John は私を訪れた。彼は常に似ず亢奮して自分の不思議な發見に就いて語つた。彼は昨日私のスケッチの片隅に私がうつかりと残した私の本名 Jane Eyre の署名をみたのである。彼はその名に色々な記憶があつた。昨日と今日の間にあらゆる手を盡して彼はその名の女性の持つ歴史を調べとげた。そして今、彼は彼の知る Jane Eyre が私であることをつきとめたのである。彼は私の名を永い間新聞雜誌に見た。それは私の失踪後 S-ro Rochester が掲げた“尋ね人”の廣告であつた。それとは別に私の行方を探してゐるロンドンの辯護士 Briggs から私に關していろんな報告や依頼を彼は受けた。何故なら印度に病んでゐた私のたつた一人の叔父が私をその財産の相續人に指定して死んだからである。二萬封度の財産!! 驚きはそれだけではなかつた。その印度の叔父は St. John の兄妹にとつても叔父であつたのだ。私の父には弟と妹とがあつた。弟は即ち印度に死んだ叔父であり、妹は

St. John 達の母親であつた。若い牧師であつた。私の父は資産家 Reed 家の娘である私の母と人に許されぬ結婚をして一年の後相繼いで死んでしまつた。そして私はこの世の中にこういふ肉親が存在することすら知らずにゐたのである。莫大な財産とそれにもまして尊い従兄姉の出現。それは孤獨な私にとつては信じられない程の幸福であつた。

二萬封度を私一人でどうすればいいだらう？ 私は私の主張を押通してそれを従兄姉にも平等に分配することに成功した。山の中のなつかしい Moor-House！ 私達四人は再びそこに集つて以前と同じ平和な生活を楽しむことが出来た。クリスマス近い日私は後任の教師に學校を託して山の家へ歸つたのであつた。

こうした變化の多い生活の中で私は S-ro Rochester を忘れてゐただらうか？ 絶対に否！！私の心の中に絶えず燃え續けてゐた彼への思慕は、こうして平和な生活にかへつた昨日今日、益々烈々と焰をあげて燃えはじめた。誰も彼に就いて知らない。S-ino Fairfax 宛に出した私の手紙にも返事はなかつた。彼はどうしただらう？
彼は私なしにどんな生活をしてゐるだらうか？

その日は何故か殊に悲しい日であつた。St. John に印度語を教へてもらひながら思はず教科書の上に涙を落した程であつた。黙々としてそうした私の有様を見守つてゐた St. John は私を散歩に誘つて私に思ひがけない申出をした。彼と結婚して印度へ行き困難な彼の傳道事業を助けて欲しいといふ。St. John は不思議な男であつた。アポロの様な美しい肉體の中に神の御旨に對する鐵の如き信念と氷の如き理性と神聖なる野心と鬭争の精神とを持つてゐる。彼の情熱は F-ino Oliver を戀ひ求めながら、彼の理性は困難な人生行路の伴侶として不撓不屈の氣を持つ私を選んだのだ。それは愛ではなくただ確固たる信念であつた。併し私はそれを受入れることは出来ない。單なる助力者としてならば私は喜んでこの望みなき英國を去り一生を傳道に獻げてもいい。併し、愛する人との結婚をすら諦めた私が、愛しない男と結婚出来る筈がない。私はそれを彼に答へた。然し彼の信念は小搖ぎもしなかつた。彼は執拗に申出を固守し恐るべき忍耐を持つて私の承諾を待つた。

それから一週間目の夜、私の心は不思議な力に支配された。St. John は神の御名を呼んで私に承諾を迫つた。甘い優しい滲透る様な聲であつた。殆んど夢心地で私が私の手を彼に與へようとした瞬間、私は何處からともなく私の名を呼ぶ忘れ得ぬ聲を聞いた。外へ走り出てみた。誰も居ない。思はず聲をあげて貴方は何處？ と叫んだが夜は何の答へもせず静まりかへつてゐた。私は固い決心と共に St. John の手をすりぬけて寢室へはいつた。

翌日の午後、私は Moor-House を出た。36 時間に亘る馬車旅行の後、思ひ出多い Thornfield に着いた。併し其處に私を待つてゐたものは焼け落ち草に埋れた廢墟だけであつた。驚愕と失望。それ以上に私の心を凍らせたのは村の宿屋の主人が私に語つた。Thornfield の悲劇であつた。私の失踪後 S-ro Rochester がどんなに私を探し求めそして苦しんだか。遂には Adèle も S-ino Fairfax も邸から出し、外界との交渉を全く絶つて隱者の生活を送つてゐたといふ。そして去年の收穫時のこと、私が姿を消してから二ヶ月目のある夜半、邸は焰に包まれた。彼の狂氣の妻が私の昔のベッドに火をつけたのであつた。S-ro Rochester は勇敢にも火の中を潜つて四階に昇り、其處に寝てゐた召使達を残らず救ひ出した。最後に屋上に歡聲をあげてゐる妻に救ひの手を延ばした時、狂女は高々と笑つて身を躍らせ、テラスの石に頭を碎いて死んだ。焼け落ちた建物の下にあつた S-ro Rochester は救ひ出されたが、片腕と兩眼を失つた不具の身を今は草深い Ferndean の莊園に横たえてゐるといふ。

Ferndean へ!! 形容し難い感情を抱いて私は車を走らせた。その日の暮方、私はそこに着いた。森の中の暗い冷たい家に、私の愛する彼は昔日の誇りに満ちた姿もなく、衰へて淋しく孤独と懊惱の中に坐つてゐた。彼は私の聲を信じなかつた。私の身體を手で觸り、その腕に抱きしめても猶未だ彼は疑つた。そして遂に、私の生きた身體が私の元のままの心と共に歸つて來た事を了解した時の彼の痛々しいまでに激しい喜びは私に熱い涙を流させた。

三日の後、私達は結婚した。私は彼にとつて彼の心であり、彼の眼であり、腕であつた。彼の喜びを喜び、悲しみを悲しんで、完全な靈肉の一致の中に私は既に十年の結婚生活を送つた。結婚して二年目に彼の片方の眼が幾分かの視力を取戻した。暫くして、彼の昔日の眼を受繼いで大きな輝しい眼をした彼の最初の子供をその腕に抱いた時、彼は心から萬能の神に感謝の祈りを捧げた。

私達のこの幸福も、私達の愛する他の人々の幸福をみる時一層高められる。小さな Adèle は私達の保護の下に立派な女性に成長した。Diana も Maria も夫々尊敬すべき男性と結婚して幸福な生活をしてゐる。St. John は遂に結婚しなかつた。そして理想の通り、印度で神の教へのために血みどろの戦ひを續けてゐたが、今や彼の榮光の陽は沈まうとしてゐる。心靜かに神のみもとに行く日を待つてゐるといふ彼の最後の手紙を深い喜びと熱い涙と共に私は讀んだ。〔完〕

新 刊 紹 介

BIBLIOGRAFIO

Seditajn po 2 ni recenzas

Unuope ricevataj estas nur menciataj

- ◎ 目下現品を取寄中のもの
- 將來取寄せる見込のもの
- ▲ 目下學會に在庫あるもの
- ★ 取次がぬもの及び非賣品

自 然 科 學

✓▲ **LA HOMAJ RASOJ DE LA MONDO**, de Rolf Nordenstreng, eld. de Förlagsföreningen Esperanto u.p.a., Stockholm, 1935; 12×20 cm. 212 p. 定價 2 圓 10 錢 (送料 6 錢)

この本を見た時僕はすぐ讀みたくなつた。早速借用に及んで、いつも懷に入れて歩いてひまある毎に讀んだ。人種學といふ學問の本であるが専門家相手の難解なものではなく素人にも分るやうに平易に書かれてゐる。文章も、あまり上手とはいへないがすらすら讀める。内容の學問的價值に就ては素人の僕には批判は出來ないのでさしひかへるが「白人が最優秀な人種である」といふ歐米人の俗信に反對し「どの人種が最優秀であるか」といふ問題其物が非科學的な問題であるといつてをり、さういふ迷信を排して人種に對する正しい認識を與へるのがこの論述の目的であるとしてゐる所を見れば曲學阿世の徒でなく良心的な學者であると考へられる。各人種の典型的な相貌を示す珍らしい寫眞が多數挿入されてゐて讀者の興味を増し理解を助ける。讀者は種々興味ある事實を知り常識を増すであらう。

だが、文章が如何の、内容が如何のといふ事より、この本で一番大事な事は、この本が科學の本である事、その専門の學者自身によつてエスペラントで書かれたといふ事である。今迄のエスペラント界には愚にもつかぬ信仰の書物や通俗小説の類は多過ぎる程あつて科學を内容とする本はほとんどないといつてもよかつた。エスペラントがあらゆる學問の分野へ這入つて行く事が望ましい。エスペラントの爲めにも、又、學問の爲めにも。學者でエスペランティス

トである人々は日本にも少くない。各々其専門の研究をエスペラントで發表して頂く事は出来ないものか。奥深い研究の成果をと望むのは今のエスペラント界の状態では無理としてもせめて中等教科書程度のものでエスペラントで書いてもらへたら運動に益する所實に大きいと思ふ。

(なかがき)

★ **Vocabulaire electrotechnique international, Groupe 05, Définitions fondamentales**, publikigita de Commission Electrotechnique Internationale, 20.9×29.5 cm., 64 p., 1935.

佛英兩語で術語の定義がありその他に獨伊西エス術語の譯が附加されてゐる。

✓★ **TAGUĈI, Tacuo (田口龍雄): Studadoj de la ĉerizfloro sub la fenologia vidpunkto** (櫻の開花期に關する雜考); The Memoirs of the Imperial Marine Observatory, 6, n. 1 (1935), 85-95 頁 [18.8×26 cm]

La raporto konsistas el du studoj: (1) La disflora dato en ĉefa Japanlando, (2) La disflora dato en Japan-mara bordo.

S-ro Taguĉi, inĝeniero de Mara Meteorologia Observatorio, Kobe, fine sukcesis akiri favoran subtenon de la direktoro koncerne al la publikigo de siaj studoj en Esperanto.

✓ Ĉi tie ni gratulas lin kaj multe dankas al la direktoro, D-ro T. Okada.

✓★ **Aerologia Observatorio (高層氣象臺): Raporto de la Aerologia Observatorio de Tateno** (高層氣象臺報告), n. 10 (1935), vi+280 p. La direktoro: Wasaburo OISHI. [22.5×30.4 cm]

Kiel vi scias la Aerologia Observatorio en Tateno, Japanujo, kies direktoro estas nia fervora samideano D-ro W. Oishi, ekde 1926 publikigis raportojn en Esperanto. Nun aperis la 10-a numero, kiu estas jarlibro por 1932.

★ **渥美樟雄: ロシアの新種育成家ミチューリン [Miĉurin]** 農學及園藝, 第10卷第10號別刷, 2366-2370 頁。エス語の文通によつて知りえた Miĉurin の業績その他を紹介したもの。(本別刷希望の方は二錢切手封入岐阜高等林學校内渥美氏へ)。

Kiamaniere malnovaj japanoj antaŭdivenis la veteron?

T. TAGUĈI

— 1 —

La vetero kaj la klimato havas tre gravan influon al la homa vivo. Precipe al la vivo de antikvaj homoj, kiuj vivadis en simpla kaj primitiva manieroj rilate al vestoj, manĝaĵoj kaj loĝejo, la vetero donis grandan influon.

Kaj tial en malnova tempo por eviti la suferon kaŭzotan de la vetero aŭ por konformigi sian vivadon al la veterŝanĝo homoj antaŭ ĉio provis aktive ŝanĝi la veteron mem per la magia forto aŭ per alia rimedo. Ekzemple ĉesigi la pluvon aŭ okazigi la pluvadon kaj ventegon ili provis.

En la legendoj de kelkaj triboj, ni povas trovi diversajn metodojn por fari "arte-

faritan veteron", pri kiu mi skribos en alia okazo.

Sed poste la homoj eksciis ke la magia forto aŭ religia preĝo ne povas ŝanĝi la veteron, la tiranon de la naturo, post longjara provo, kaj fine ili rezignis la provon ŝanĝi veteron kaj decidis en si ke ili nepre devas trovi ian metodon antaŭscii la veteron por pasive defendi sin kontraŭ la krueleco de la vetero. Kaj tio estis ununura rimedo por ili por savi sin for de la malbono kaŭzita de la veterŝanĝo. Kaj tre bedaŭrinde eĉ hodiaŭ ĉi tiu rimedo estas la sola rimedo. Kompreneble nuntempe oni povas protekti nin kontraŭ malbona vetero per fortika konstruaĵo sed tamen ni ne povas tute forigi la damaĝon alportitan de malbona vetero.

La antaŭdiveno de vetero en malnova tempo ne sin bazu sur la scienca studo pri la veterŝanĝo sed nur sur la kolekto de spertoj de multaj homoj rilate al antaŭsignoj de la veterŝanĝo.

— 2 —

Japanoj malnovaj, niaj prapatroj, ankaŭ havis multajn spertojn rilate al ili. En arkivoj kaj malnovaj popoldiroj, proverboj, pri vetero ni povas trovi kelkajn materialojn pri tio.

Sed la moderna meteorologio ne havas multe da intereso en tiaj spertoj de malnovuloj kaj iom iliaj postlasitaĵoj estas forgesataj.

En ĉi tiu verketo mi ne intencas diskuti la antikvajn metodojn sub la scienca vidpunkto aŭ ekzameni ilian praktikan valoron. Mi nur volas prezenti kelkajn ekzemplojn el la malnovaj metodoj. Kompreneble ne estas facile al ni kolekti kaj prezenti ĉiujn personajn spertojn pri la antaŭsignoj de veterŝanĝo. Do mi elektas arbitre unu ekzemplon por unu objekto kaj por faciligi la komprenon mi klasifikas la ekzemplojn laŭ objektoj en klasoj: 1. ĉiela metodo, 2. atmosfera metodo, 3. mara metodo, 4. kalendara metodo, 5. vivaĵa metodo.

I. Ĉiela metodo.

1. (Ĉielo) Kiam la ĉielo aspektas pli alte ol la ordinara alteco, oni havos belan veteron. (A)
2. (Suno) Kiam la suno aspektas pli pale, ventegan veteron oni havos. (A)
3. (Luno) Eksterordinare blanka luno antaŭsciigas la pluvon.
4. (Haloo) Suna kaj luna halooj ambaŭ estas signoj de la venonta ventego. (A)
5. (Stelo) Trembrileto de stelaj lumoj antaŭsciigas uraganon. (A)

II. Atmosfera Metodo.

1. (Atmosfera) Kiam la atmosfera (aero) havas abnorman blankecon, oni havos kvietan veteron. (A)
2. (Kasumi-Nebulo) Pli ruĝa nebulo estas la antaŭsigno de bela vetero, kaj nigra nebulo estas tiu de pluvvetero. (A)

3. (*Kiri-Malseka nebulo*) Blanka nebulo estas la antaŭsigno de klarvetero, sed nigra, pluva vetero. (A)
4. (*Ĉielruĝo*) Vespera ĉielruĝo en printempo antaŭsciigas venontan pluvon. (A)
5. (*Prujno*) Kiam prujno degelas pli frue en mateno, oni havos pluvveteron. (A)
6. (*Ĉielarko*) Ĉielarko aperinta en pluveta vetero naskos ventegon. (A)
7. (*Tondro*) Nokta tondro en pluvvetero daŭrigas la veteron. (F)
8. (*Vento*) Orienta vento en aŭtuna kaj vintra sezonoj antaŭsignas malkvietan veteron. }
9. (*Nubo*) Skvamsimila nubo antaŭsciigas la ventegon. (A) } (A)

III. Mara metodo.

1. (*Marsurfaco*) Tre ŝaŭmanta marsurfaco estas la antaŭsigno de ventego. (F)
2. (*Ondŝvelo*) Ondŝvelo estas la antaŭsigno de uragano. (A)
3. (*Travidebleco*) Travidebleco de la mara aŭ rivera akvo antaŭsignas la bonveteron. (J)

IV. Kalendara Metodo.

1. La vetero de la unua tago antaŭdecidas la veteron de la monato. Se estas pluve, oni havos malsekajn veterojn. (F)
2. Se oni havas belan veteron inter la 28-a ĝis la 30-a de januaro (laŭ malnova aŭ luna kalendaro) oni havos ventegon en la 4-a aŭ 5-a de februaro.
3. Pluvo ĉesinta en la deka horo, repluvos baldaŭ. (F)
4. Se oni havas belan veteron en printempa *dojoo** (土用), oni havos ankaŭ belan veteron en aŭtuna *dojoo* kaj la sama rilato ekzistas inter somera *dojoo* kaj vintra *dojoo*. (F)

5. La vetero de la unua tago de *hassen** (八專) antaŭmontras la venontan veteron. (F)

* Koncerne al la specialaj nomoj de nia kalendaro, ekz. *dojoo* kaj *hassen*, bonvole referencu la libron "Kojomi=Kalendaro" verkita de D-ro N. Iĉinoe.

Notoj pri la literaturo: La grandliteroj en la ronda krampo montras la literaturojn referencitajn:

(A) Kaisen Anjooki (廻船安乗記) publikigita ĉ. 1810 p. K.

(F) Funanori Ĉoohooki (船乗重寶記) ĉ. 1748 p. K.

(J) Senkoo Joojucu (船行要術) ĉ. 1504 p. K.

Ĉiuj tri literaturoj estis la gvidlibro por la ŝipanoj.

(Finota)

Pri la Jafetida Lingvoteorio

P. V. ISAJEV

われわれ、エスペランティストにとってマル教授の新しい言語理論、ヤフェティド理論 (jafetida teorio, またわヤフェティド學 jafetidologio) わ、一般の言語學者にとってほど無關係なものでわない。ヨーロッパ、日本の言語學者の説く言語理論が、國際語の問題おテンデ取上げない、もしくは、取りあげる能力がないのにたいして、マルの理論わ進んで世界語の不可能性お彼の約半世紀にわたるネバリ強い研究の結論か

ら言語發展の必然的日程として確めている。このことわ國際語運動の實踐にたずさわっているわれわれにとつて、強い關心の的となる。

彼ら言語の發展が、多様から統一へ動いて行く社會經濟生活に應じて同じよーに多様から統一へ向つて進んで行き、將來世界の經濟生活が單一化されるあかつきにわ、言語も單一共通のものとなるであろーと言つている。しかし、彼において民族語から世界語へ移る過渡的言語としての國際語の意義を充分に検討されていない。それら彼の研究が、とくに歴史以前における言語の發展お物質文化の歴史と關連させて検討することであつたから、近代的言語である民族語の必然發展としての國際補助語の充分な理解にまで達しなかつたのわ當然かもしれない。

しかし、とにかく、言語の起原は單一で、ますます分化して行くものだと説く一般の言語學者、またそーゆー根本的な問題お取扱えない研究者の多いとき、われわれがマルにおいて言語發展の正しい研究——われわれの國際語の理論的基礎づけに力お加えてくれる研究が行われたことわ、高く評價すべきである。われわれわ彼の理論およく消化することによつて、自分の理論により強固な土臺お與えることができるであろー。

このよーに重要な彼の理論わ、しかし、まだわれわれ自身によく紹介されていない。それで、ここにウクライナのイサエフから僕の受取つた小さな論文おのせて、註釋お加え、諸君の參考の材料としたい。ヤフェティド理論についてわ、すでにエスペラントでアンドレエフのものが出ているし (Andrejev: *Revolucio en la lingvoscienco*, 1929, SAT 發行), «國際語研究» n-oj 5-9 にフジャコフの《ヤフェティド學の本質と意義》がのせられている。スピリドヴィチの《言語學と國際語》にもマルの理論にたいする批判的検討が行われている。フジャコフのものより詳しいブイコフスキーの紹介わ近く單行本として出版せられるから、關心お持たれる方わそれお見ていただきたい。

— TAKAGI-H.

La nova instruo pri la lingvo aŭ jafetidologio¹ komence estis ne pli ol parto de la malnova hindeŭropisma lingvoscienco,² kiu dividis ĉiujn lingvojn en apartajn rasajn

1) ヤフェティドとゆー名前わ舊約聖書に出てくるノアの長子ヤフェト (Jafeto) から取つたもので、つぎの文で説明してあるよーにマルが発見した新しい言語型に與えられた名で、ヤフェトの子孫とゆー意味。言語のグループの名お聖書傳説から取つてくことわ古い言語學の習慣で、マルもそれにならつたわけである。ヤフェトの弟わセム、ハムでセム、ハムがそれぞれ semida, hamida としてアラビア、ユダヤ語とアフリカ諸語につけられていたのにヤフェトがまだ用いられてなかつたので、マルわそれお利用した。そしていわゆるインドヨーロッパ語おばヤフェトの子孫であるプロメテオ (神から火お盗んだと言われる) からとつて prometeida と呼んだ。この命名法によつて、ヤフェティド語がヨーロッパ語より古いものであることが明かにされる。

2) インドの古代言語サンスクリットからイギリス語、ドイツ語に至るインドからヨーロッパの地域にわたる言語わ同じ系統としてインド・ヨーロッパ語と總稱されている。そしてこのインド・ヨーロッパ語お研究の對象とし、それお世界の他の人種にたいするインド・ヨーロッパ人の優越性お説く主張に意識的無意識的にもとずいているのが行われる《インド・ヨーロッパ言語學》である。ナチスわアーリア人 (インド・ヨーロッパ人の祖、サンスクリット語で《貴い》の意) の優越お公然と説き、セミード人であるユダヤ人迫害、殖民地獲得の口實としているし、イタリーのムソリニも同人の優越お主張している。こーゆー片よつた主張にたいしてマルの理論わ積極的に戦い、人種に優劣のないのと同じく、言語にも優劣わなく、現在ある相異わその歴史的發展段階の相異によるものとして、それお實證している。

«familjoin»,³ devenintaj de apartaj pralingvoj⁴ pro ties splitiĝo. Ekzemple, laŭ tiu lingvoscienco, la germana, angla, holanda, sveda lingvoj devenis de unu germana pralingvo, kiu, siavice, devenas de la hindeŭropa pralingvo pro ties splitiĝo en germanan, slavan, roman⁵ kaj hind-iran⁶ pralingvojn.

La unua artikolo de N. J. Marr,⁷ ellaborinto de la jafetidologio, aperis en 1888 en kartvela⁸ ĵurnalo «Iveria». En la artikolo Marr, tiam studento de la Petrograda universitato, asertis, ke kelkaj lingvoj de Transkaŭkazio⁹ (kartvela, megrel-ĉana kaj svana), pri kiuj en tiama lingvoscienco ne ekzistis sufiĉe klara ideo, estas parencaj al la semidaj lingvoj.¹⁰ Post 20 jaroj li eldonis komparan tabelon, kie la aserto estis pruvita kaj disvolvita. Li nun asertas, ke la kaŭkazaj lingvoj (krom la tjurkaj¹¹) estas unu lingva familio, kiun li nomis jafetida kaj kiu, laŭ li, havis komunan pralingvon kun la semida familio.

Sed la poste diskovritaj faktoj ne permesis al N. J. Marr konservi tiun vidpunkton. Estis trovitaj pure jafetidaj lingvoj en Okcidenta Eŭropo (en Pireneo) — la baska¹² kaj en Centra Azio (Pamiro¹³) — la verŝika. Kiamaniere jafetidoj estas tiel malproksime de Kaŭkazio? Serĉante la respondon, Marr trovas, ke multaj, jam mortaj, lingvoj estis jafetidaj (ekzemple la etruska¹⁴ en Italio, la kaldea¹⁵ en Antaŭa Azio), ke en ĉiuj hindeŭropaj lingvoj estas troveblaj jafetidismoj.¹⁶ Pli poste jafetidismoj estis trovitaj en ĉiuj lingvoj, kiujn tuŝis la esplorado de Marr. En unu parto de lingvoj jafetidismoj estis pli abundaj, en la alia parto — malpli. Al la jafetidismoj en la ĉina lingvo Marr dediĉis serion de artikoloj sub la komuna titolo «La ĉina lingvo kaj paleontologio de la lingvo»¹⁷ (1926–7 jaroj).

3) familio わ《族》の意、人種族、言語族など。

4) 原初言語。

5) ロマン語わラテン語から出たフランス、イタリア、スペイン、ポルトガル語などの總稱。

6) インド語、ペルシア語の總稱。

7) Nikolaj Jakoklevič Marr (1864–1934) わカフカズの一地方グルジアに生れ、ペトログラード大學お出て 50 年近くの研究生活おつづけ—昨年死んだ。レニングラード大學の教授、科學アカデミー副會長。言語學以外に考古學者としても多くの業績お残している。彼の研究わアジア、ヨーロッパの境の諸言語の研究からはじまり、自然發生的に唯物論的研究方法おとり、1925年ごろからは、ハツキリ辯證法的唯物論おその方法とし、ヤフエティド研究所お起し、唯物論的言語理論としてヤフエティド理論お築いた。彼の理論の強みわ、それが机上の空論でわなく、ことごとく實證にもとずいていることである。彼わ30餘の言語に通じていたと言はれる。

8) グルジアと同じ。

9) カフカズわロシアの南部、裏海と黒海とにはさまれた地方、中央にあるカフカズ山脈の南方がザカフカズ(トランスコーカサス)、グルジアわその一地方、イギリス語でわジョージアと言う。

10) セミード語わアラビア、エチオピア語などお含む。

11) トルコ語の一種。

12) バスク族わフランスとスペインのあいだのピレネー山脈に個立してゐる山地種族、人種も言語も所屬不明とされていたもの。

13) パミールわ中央アジアの高原、世界の屋根と言われる山地地方。

14) 遺物だけ残つていて、所屬不明とされていた言語。

15) ペルシア地方にあつた古代王國カルデアの言語。

16) ヤフエティド語的特長。

17) lingva paleontologio 言語先史學わ考古學者であつたマルの研究の中心おなすもので、歴史以前言語の研究である。

La konkludo farita de Marr en 1927 en artikolo «La hindeŭropaj lingvoj de Mediteraneo»,¹⁸ restis bazo de la teorio, restas bazo de lingvoscienco en USSR hodiaŭ: «Mi asertas, ke la rasa aparta hindeŭropa lingva familio ne ekzistas. La hindeŭropaj lingvoj de Mediteraneo ne venis iam de ie kun iu rasa aparta materialo lingva, devenanta de iu rase aparta pralingvo. Interalie, komence estis ne unu, sed multnombraj tribaj lingvoj,¹⁹ unu pralingvo estas jam finservinta scienca fikcio.²⁰ La hindeŭropaj lingvoj formas apartan familion, tamen ne rasan...; la tipo lingva de la hindeŭropa familio estas kreaĵo de novaj ekonomi-sociaj kondiĉoj, la materialo ilia estas tiu de jafetidaj lingvoj, kiuj pro ŝanĝo de soci-ekonomiaj kondiĉoj transformiĝis en la hindeŭropajn.»²¹ La lingvoj albana kaj armena, kiuj estas duone jafetidaj kaj duone hindeŭropaj, nun estas en mezo de la transformado. La kartvela lingvo estas la lingvo, transformiĝanta de la jafetida en la semidan tipon.

Post insista laboro sur la supremenciita bazo Marr kaj liaj lernantoj konstruis konsekvencon, sistemecan teorion, pruvitan de faktoj de multaj lingvoj de la paleoaziaj²² en la Nordo ĝis la hotentota en la Sudo, de la indianaj²³ en la Okcidento ĝis la ĉina kaj japana en la Oriento. Jen estas tezoj de la teorio, kiel mi povas formuli ilin:

1. La lingvo ne estas fenomeno biologia, rasa. La lingvo estas fenomeno *socia*.
2. La lingvo estas nedeŝirebla kunigita kun pensado. La lingvo estas formo de la homa pensado.
3. De la ŝanĝoj en soci-ekonomia ordo ŝanĝiĝas la pensadmaniero de la homoj. Kun ŝanĝo de la pensadmaniero ŝanĝiĝas ankaŭ la formo de la pensado—lingvo.
4. Nun estas eble difini 4 stadiojn, ŝtupojn de la disvolvo de pensado kun unu subŝtupo, al kiuj konformas tipoj de la lingvo. Nun sur la terglobo la lingvoj konformaj nur al 2 lastaj ŝtupoj kaj la subŝtupoj estas troveblaj, pri la 2 antaŭaj ni povas ekscii per la lingva paleontologio.
5. Tipoj de la lingvo en diversaj kondiĉoj povas havi diversajn formojn (ekzemple, la konformaj al la lasta stadio de la pensaddisvolvo hindeŭropaj kaj semidaj lingvoj).
6. Ofte la lingvo postrestas de la pensaddisvolvo.

Tiel la ĉina lingvo laŭ sian strukturo konformas al la 3-a ŝtupo, sed priservas la pensadon de la 4-a, aŭ la jefetidaj lingvoj konformaj al la transira subŝtupo inter la 3-a kaj la 4-a bone priservas la 4-an ŝtupon de la pensado.

7. La lingvo de la homaro ĉie disvolviĝas same, laŭ samaj leĝoj, kvankam la formoj de la disvolvo estas diversaj.

18) 地中海を中心として共通的文化を営んでいたとされる時代のインド・ヨーロッパ語。

19) tribo 種族。 20) すでに務めお終えてしまった學問的虚構。

21) インド・ヨーロッパ言語學はインド・ヨーロッパ原初言語の再構成を目的としているが、インド・ヨーロッパ語の *lingva tipo* はヨーロッパの支配文化の社會經濟的要求の結果だとし、そして彼らの達成したその原初言語はインド・ヨーロッパ以前の古い言語型であるヤフェティド語的要素から成るとする。 22) 古代アジア語。 23) アメリカインディアン語。

8. Lingva disvolvo de la homaro iras de multnombregaj tribaj lingvoj al la unu tuthomara lingvo de la estonto, kiam la tuta homaro formos unuecan socion.

9. En la klasa socio la lingvo estas klasa.

10. La lingvo ne ĉiam estis kaj estas sona. En la du unuaj kaj parte dum la tria ŝtupoj ĝi estis mova, pli poste braka (mana).²⁷ La sona lingvo disvolviĝis el 4 komencaj nediferencitaj sonelementoj, trovitaj per paleontologia analizo de lingvoj.²⁵

La 24. dec. 1934 N. J. Marr mortis en aĝo de 70, antaŭnelonge premiita per ordeno de la registaro pro granda scienca laboro.²⁶ Nun lian verkon daŭrigas multaj lernatoj. Mi nomu nur Bikovskii, Mjeŝĉaninov, Abajev, Baŝinĝagjan, Aptekar. El la lastaj laboroj de niaj jafetidologoj²⁶ notindaj estas laboroj pri «desemantigo»²⁷ (uzado de pense malnovaj elementoj en nova lingvo), disvolvado de pensado el la besta ĝis la nuntempa homa, pri procedo de «analitigo»²⁸ en hindeŭropaj lingvoj, kiu konformigas ilin al nova etapo de pensado pli bone, ol ili konformis ĝisnune, pri disvolvo de la kvar elementoj k. t. p.

En pluaj artikoloj mi intencas analizi diversajn asertojn kaj problemoj de la nova prilingva instruo.

24) mova lingvo 動的言語、すなわち、身振、手まねによる交信。古代社會における人間の唯一の生産手段であつた手による言語の存在をマルの言語起原論において重要な役割りお持っている。

25) 原始人間の生活において手による言語は、人間の生活の發展、複雑化にともなつて、不十分なものになり、すでに存在していた動物的音聲が言語的役割を演じてくるようになった。このいまだ分節化しない、diferenci しない要素的音が四種類あり、これが現在の分節化した音聲言語の要素であること、マルは實證している。

26) ordeno わレーニン章のこと。

27) 意義分離化、思考のうえから古い要素を新しい段階の言語で使用する。

28) 分析化、言語表現が分析的になることである。

衆議院議員 立候補者のエス語に関する意見 (追加)

賛成 中村梅吉、木崎宏、畑桃作、林與重、木暮武太夫、宮古啓三郎、渡邊泰輔、木下成太郎、戸井嘉作、松實喜代太、赤松克麿、板谷順助、和田喜太郎、菊地長右衛門、高橋壽太郎、内海安吉、千葉傳藏、喜多壯一郎、野口令吉、瀬川嘉助、坂下仙一郎、井上彰、服部英明、鈴木正吾、深川譽太郎、中村三之丞、鷲野米太郎、西村金三郎、渡邊昭、川村保太郎、田中養達、八木逸郎、中井一夫、山下谷次、小西和、戸澤民十郎、森田福市、高橋圓三郎、由谷義次、鈴木憲太郎、石坂繁、川副隆、中田正輔、佐保畢雄、三浦虎雄、青柳長次郎、木曾重義、高野喜六、三浦愛二。

反対 宮本雄一郎 (時期尚早説)

研究中 小坂梅吉、高木桑太郎、塚本重藏、——候補者不在 北川久次郎。

以上前月發表のものと合せて回答總數—— 103 通中賛成者 97 名。反対者 2 名。回答保留 7 名。(候補者不在につき回答不能 2 名)

〔注意〕 これらの回答の詳細は近々未回答の代議士に再度問合せを發して集めた回答と共に併せて發表の豫定です。

内外^{エス}運動展望

Robert Kreuz 氏の訃

UEA の direktoro R. Kreuz 氏が去る 1 月 31 日に急逝されたことは世界エス界のためかなしむべきことだ。同氏のエス界における業績については別項進藤氏の記事参照されたい。

ここにつつしんで御遺族に哀悼の徴意を表明します。

アルゼンチン菜食會

Argentina Naturista Federacio 主催の naturistaj (vegetaraj) societoj の nacia kunveno でエス語を國際關係方面の公用語として採用する決議をした。又同時にその Federacio の機關誌 Vitalismo に Internacia Naturista Movado 欄が設けられた。

New Education Fellowship

萬國大會

来る 4 月 14-20 日と蘭 Utrecht で開かれる教育と教授の革新の國際大會に於てエスペラントが英佛獨蘭四國語と共に公用語として用ひられることによりすべての演説及び討論はエス語に通譯されることになった。

この大會の主題は Lernu kunvivi! である。ここで行はれる演説の中に Julius Glück 教授の Esperanto en la servo de la kunvivado といふのがある。

この機會にエス語の宣傳をなすため展覽會をひらくことになったから教育關係の同志は兒童にエス語をおしへた経験や統計その他について Prof Julius Glück, ĉe S-ro G. H. Koudijs, Paulus-Potterstraat 16, Utrecht, Nederlando にしらせてほしい。

Utrechtsch Nieuwsblad 編輯長

1 月 7 日に丁抹の Utrecht に於て Isbrücker 夫人及び Cesch 氏がエス語及び Ĉe-metodo について話した又 11 日には Glück 氏が Praha の幻燈をうつして講演した。これは各新聞紙に報道された。

而して Utrechtsch Nieuwsblad の主筆 Goedhert 博士は Glück 氏を招待して 2 時間 25 分間會見して 335 行に亘る會見記を發表した。而してこの新聞へエス欄が記けられることになった。しかも主筆自身同欄を擔當するのである。同氏宛いろいろの esp-ajoj おくられたし。

エスペラント文書き案内書

Viena Foiro —— 三度刷の折本。申込み先は、Zentralbüro Der Wiener Messe-A. G. Wien, VII., Messeplatz 1.

Budapesto, la metropolo de sanigbanejoj —— 四六版四頁、寫眞版數個入。申込先は Centra Komitato de Budapesto, Budapesto, V., Vigado-Placo 3.

Grossglockner Transalpa Ŝoseo —— 大型折本に原色版鳥瞰圖と寫眞版十數葉入りの美しいもの。申込みは Grossglockner-Hochalpenstrassen A. G., Salzburg, Aŭstrujo へ。

Lyon —— 四六版寫眞版 48 個。寫眞には佛語の説明を入れ別に各國についてドイツ語、英語スペイン語、イタリア語、エス語の五語の譯がついてゐる。リヨン市寫眞帖である。

La Lyon'a Internacia Foiro —— 四六版 6 頁大の横長の folio。エス文でかいたリヨン見本市についての各種案内。

新聞に出たエス記事

別項「新聞雑誌とエス語」欄記載の如くパーマー氏送別會や東京府立第六高女のエス語科問題や觀光局のエス語案内についてさかんに記事が出てひどく世人の注目をひいてゐる

東京大勢新聞は第一面五段抜きで岡本氏がサンデー毎日の阿部氏の論評(前號参照)を反駁したことについて「女學校のエス語教授が教育界に一大論争展開」と初號活字で二行にデカデカとかかげセンサツイアな記事を出した。信濃毎日新聞は論説欄に「中等學校に於けるエスペラント」をかかげた。東京日々東京版にパーマー博士がエス語で話したことがデカデカ出たこと等々。九州新聞は同博士演説要旨をも掲載した。

小樽の國際友好會

昨年 10 月號で小樽に生れた國際友好會ではベルギー皇后陛下崩御に際し女學生の追悼の手紙を集めエス譯して先方へ送つた所去る 1 月 6 日ブラッセル市立第二小學校よりベルギー少女の感謝の返事が來且同會より申出の人形使節交換も賛成してきた。それで 3 月 6 日の地久節に小樽市立高女の講堂に於て生徒及び父兄出席の上盛大に人形使節送別式を催した。この事は各新聞紙にエス語よりなされた旨をかきそへ報道された。東京駐在ベルギー臨時代理大使デクト氏からも祝辭がきた。又小樽市長は人形使節に托して和エス兩文の

メッセージを送った。小樽市民のエス語に対する理解も之によつて一層深まった。

産婆學校でエス語正科

既報の熊本の神尾産婆養成所では今春の新學期からエス語を正科に入れた。この事は大阪朝日熊本版にも紹介され「從來同所（神尾産婆養成所）出身者約二百名が内地は勿論滿洲南米南洋その他世界の各地に發展してゐるのに鑑み今春の新學期から國際語エスペラントおよび歐文タイプライターを修學せしめるのみならず……躍進日本の現状に適應する産婆を養成しようといふすばらしい尖端的な産婆學校として更生することになった云々」と報じてゐる。猶エス語は同養成所の必修科目であつて入學心得書には同語學習の意思なきものは入學を謝絶すと明記されてゐる。又九州毎夕新聞でも3月17日に、同所趣意書全部を轉載九段ぬきで報じてゐる。

市會議員候補者に質問

過般の代議士候補者にエス語に対する意見の質問を出した例にならひ飯塚エス會で目下施行中の市會議員選舉に際し立候補者に同様の問合せを出した。發信 43 通で受信 3 通。岩下金藏氏は補習學校中特別科目にエス語を入ること賛成と返答。木村登氏も賛成。武田星輝氏は「私の嫌ひなものはゲジゲジの次にはエスペランティストであります。云々」と徹頭徹尾エス語排撃の心臓の強さには些かあきれる外はない。

「鐵道青年」にエス語講座

鐵道部内に三萬の讀者をもつ「鐵道青年」誌に4月號からエス語に關する記事が掲載されることになった。これは神山、矢島兩氏の努力による。まづ4月號には矢島氏の「永田氏との車中談」「鐵道とエスペラント」の記事がでて5月號には井上氏の「觀光事業を中心として」が出る。又その反響次第エス語講座がのせられることになるとのこと。

葦陽文化學院のエス語教授

福山市神島町上市 419 に再興された文化學院では英語の外エスペラントを教授することになった。修業年限 1 ヶ年商業本位の學校。

全 國 各 地 報 道

投稿注意：

1. 日本文にて・なるべくハガキで・迅速に・簡単に。
2. 締切大體前月 18 日（18 以後到着のものものをせることあり）。
3. 地方會誌を以て報道に代ふるをえず。
4. 寫眞は裏に必ず何の寫眞かといふ説明記入の事。寫眞は返送せず資料として保存す。

東京 パーマー博士送別會——學會及び東京エス俱樂部共同主催にて大正11年以來 14 年間日本にあつて我國英語研究に偉大の功績を残した文部省英語研究所顧問パーマー博士が近く歸國されるので氏の送別會を3月14日東京基督教青年會館に開く。同氏來朝の年の日本エス大會に氏を國際語の友として招いたことは古い同志の記憶に新な所である。今度は同氏が歸國に當つてぜひ日本の esp-istoj にあつて自分の考へを話したいといふ申出が佐々城佑氏に通じられたので去る2月某日佐々城、岡本、三宅三氏でパーマー氏とあひその意見をいろいろきいた。その結果この送別會が催れたものである。同氏の我々に云ひたいことは英語學者と esp-isto と仲よくやること。及び今後の國際語運動はベシツク・エスペラント（基本語彙を少くする）を造つてはといふ意見をのべることにあつたと思ふ。17時半より送別晚餐會。出席約 20 名。19 時より送別講演會。

天候も相當懸念されたが約百名の出席があつた。原田氏の開會の辭について久保氏司會の下に佐々城佑氏の英語の送別の辭ありついでパーマー博士はエス語で一話一語力を込めて國際語の必要を力説し且つ人工語の必要を力説したその演説の和譯は本誌 4-6 頁に掲載の通りである。なほそれに就いて二三の質問があり。岡本好次氏は我々東洋人に取つてイードよりエス語の優る諸點を實例を指摘し説明。イード語を以つて演説喝采を博した。栗山五百枝、萬澤まき子兩嬢の送別の辭、石黒修氏のパーマー氏の日本エス運動への功績をたたへるの辭があり小坂菊二氏は第十回日本大會に出席したパーマー氏の思出話に初まつて東洋人を無視した國際語は國際語たりえずとのベイドとエス語の相違點に就いてのベイドが西洋的である點をのべてパーマー博士の熟考を促す熱辯をふるわれ大喝采であつた。其の席上新に井田千枝子夫人（クララ會代表）小松文夫氏東京鐵道エス會代表の二

人が新幹事に推選され承認を得た。

★東京エス・ケンシード聯盟の委員會は毎月第一土曜日午後一時から學會にて開くことに變更。

★アルヂエンタ・ケンシードでは今後いささか lingveca にし、エス語表現上の疑問をもち寄つてみんなで考へて解決するやうなことをやつてゆくつもりである。

Luma Rondo 四月は例會をやめ pikniko をする。12日(日)10時省線澁谷驛ハチ公銅像前集合。辨當持參の事。行先多摩川べり(乗車賃往復 50 錢位)。雨天の節は 19 日。曇天決行。

日本エス學會主催初等講習會

時日——4 月 16 日より二ヶ月間

毎週月木兩曜日午後七時——九時

場所——本郷區元町日本エス學會階上

會費——全期三圓(前納のこと)(學會々員は二圓)

用書——エス短期講習書(20 錢)及び井上、エス初等讀本(30 錢)

講師——學會評議員原田三馬氏。

横濱 ★横濱エス協會——◇Verda Jupitero——2月20日例會出席數名。Fabeloj III 輪讀。東京へ移られる吉田太市氏お別れの挨拶。◇27日例會出席數名。◇5 日例會出席 10 數名。新川氏を中心に自由會話。◇12 日例會出席 12 名。翻譯研究(富盛氏提出)。◇Y.M.C.A. Esp.-Grupo——中等研究會毎火、金 19 時より小坂「イソップ」。3 月より吉田氏に代り佐久間氏指導。◇例會毎火曜 20 時より和文エス譯。◇横濱英語學校では新學期より杉山氏指導の講習會を持つ筈。◇2 月 28 日 19 時吉田氏送別會、出席 10 數名。氏へ記念品を贈る。◇昭和 5 年以來横濱エス運動に多大な貢獻をされた吉田太市氏は今度御都合により東京へ移轉された。

◇Rondo Amikino——例會毎木曜 19 時、メッセンヂャーボーイ事務所。用書“Historio de la lingvo Esperanto.” 毎回出席數名。

仙臺 ★帝大理學部の中村貴義氏は同學部内にて毎週二回エス講習指導中。7 名出席。

★仙臺エス會——今年に入つてまだ kunsido をもつてをらぬ。同志の奮起をのぞむ。

盛岡 ★盛岡エス會——1 月 19 日舞川の伊藤氏を迎へ歡談、出席 4 名。同氏の



盛岡エス會——大坪氏送別會
昨年 12 月、中央大坪氏



昨冬ザ祭——右より〔前列〕宮師、安本、井川、〔後列〕松木、佐藤、小原、大川の諸氏

國際通信で得た寫眞、繪葉書、切手が一卷の立派なアルバムになる。◇29日例會、出席 3 名。この日安本氏を病院に見舞ふ。◇2月5日流會。立候補者へ質問狀を發送。◇12 日例會、出席 2 名。◇19日例會、出席 3 名。瀬川氏青森より見える、四五日滞在。◇26日例會出席 4 名。Heroeca Junulo を讀む。◇3月11 日例會、出席 8 名。古い同志星氏來る。最近星氏は釜石に寄港する外國船を歴訪して宣傳に努めて居られる由。又川村氏はこの程ドイツから歸朝された方初めて當會訪問。◇18 日例會、出席 3 名。誌上座談會設置及び講習會(4月—5月松木氏指導)に就き協議。



札幌ザ祭——右より〔前列〕相澤、前田、前田、上野、太丸、村山、〔後列〕相澤、前田、本間、仁岸、浪越、木村、坂、下山、福原の諸氏。

札幌 ★札幌エス會——◇2月10日旭川高宮愛子嬢來訪。◇2月16日北海道タイムス社訪問別項掲載新聞記事を依頼。右記事の反響大きく約20人から照會あり。◇2月21日ツーリスト支部長後藤恒三郎氏を訪問大會の顧問を依頼。◇2月25日帶廣の沼田氏來訪。◇3月1日スキー。6人の同志の4、5名の準同志參加山の家へ。◇3月4日、3月9日札幌エス會坂本氏訪問大會につき懇談。◇3月10日市役所訪問大會につき相談。◇3月11日相澤宅で大會につき協議。

今夏の日本エス大會は準備着々進行中。某會社より乳製品寄贈さるる筈。プログラモほぼ決定本誌次號發表。Ekskurso は候補地數種あり選定中。

帶廣 ★帶廣エス會——2月15日旭川エス會々長木津氏御家族同伴で來訪。1ヶ月滞在の由。この日の講習會に同氏夫人の挨拶あり、今年3歳の可愛い filo は“Bonvenon sinjoro, Ĉu vi havas naztukon?”と皆を面喰はす。◇22日當エス會研究會はカルロ、スラブ、フランス篇を完へ、4月から Fund. Krestomatio 輪講に決定。◇28日沼田氏札幌エス會を訪れ日本大會に就き懇談。帶廣より參加10名大會に出席且當エス會に於てエス合唱團を組織する御期待を乞ふ。◇4月1日より初等講習會開講、各新聞に宣傳の手筈をする。猶本會は學會々員十名を越したので支部を設立すべく其の手續中。

苫小牧 ★苫小牧エス會——2月11日例會。出席4名。◇24日例會、出席5名。歸省中の札幌エス會の藤本氏を加へ、本會の發展を協議。◇27日19時岡垣氏方に苫小牧工業本年卒業生送別會を持つ。出席13名。Z博士の肖像を贈り、前途を祝ふ。◇2月3日岡垣氏は新潟醫大在學中同志であつた今博士を訪れエス運動に就き懇談。同氏は學會々員である。◇8日室鐵エス會の三崎、川原田兩氏來訪懇談。

富山 ★富山エス會——Marda kunsido — エゾーボを讀了。今“Piramo kaj

Tizbeo”の本讀み。◇3月15日大丸食堂部で例會出席8名。北陸大會開催に就き協議。◇4月月例會は1日くりあげ14日岡部地下食堂にてザ祭。

坪田一男氏の訃 金澤エス會の熱心な同志で同會にはなくてはならぬ偉大な存在であつた坪田一男氏は去る3月20日腦炎のため24歳の短い生涯ををへられたのはいたましかぎりであつた。金澤エス運動史編纂中の途上なくなつたのも残り惜しい。

つつしんで遺族の方々に哀悼の微意を表明します。

名古屋 ★名古屋エス會——例會（毎火曜 晚白木方）。用書「イヴンの馬鹿」。

桑名 ★桑名エス會——2月16日例會。四日市より福田氏を加へ出席5名。R. O. に就き論議。◇3月1日例會、出席3名。◇15日例會、四日市より福田氏、出席7名。エス文法に就き討議。◇回覽雜誌 HEL は益々隆盛。

一宮 ★一宮綠星グループ誕生——4月より毎日曜 18-21時例會。會場は一宮市公園通1の6綠星社印刷所松本勝二氏宅階上。

岐阜 ★岐阜エス會——2月15日19時新井憲一、高木鉦一兩氏の歡迎會を持つ。新井氏の體驗談あり。岐阜に開られる博覽會を機に縣下の同志招待の件に就き協議。（下の寫眞参照）



右より〔前列〕板橋、高木、新井、浦野、〔後列〕柳原、木村、水野、棚瀬、北村、高井の諸氏。

第十回北陸エスペラント大會

期日——5月3日（日曜）

場所——富山商工會議所（公園内）

主催北陸エス聯盟。大會準備委員長大塚正之氏。大會に關する勸告その他を希望す。◇通信は富山局私書函第28號富山エス會宛。

京都 ★京都エス聯盟——3月8日今年最初のピクニークを青谷梅林へ選ぶ。梅未だほころびず、雪さえ降り始め、白雪の梅林の茶寮にはからずも雪見の宴を持つ。



左より〔前列〕一木、杉村、高石、田中、西村、大藤、久間、〔後列〕山口、一木、渡邊、赤田、穴戸、服部、木下の諸氏諸嬢

大阪 ★大阪 Esp. 會——輪讀會用書 Privat: Interpopola Konduto 19時より約一時間規則正しく行はれ、毎回三頁づつ順調に進む。◇2月25日輪讀後學會會員名簿の件委員會試案を議し異議なく可決。◇3月10日總會前任委員の報告、次期方針に関する討議案(進藤)は第二動議なく否採擇半数委員改選の結果新委員會成立: 藤田(新)、石川、黒崎(取次)、桑原、里吉、進藤(庶務)。◇3月17日 Komuna Vespermanĝo: 中西氏(岸和田)、兒島氏(新星)、田中氏、小宅氏(鐵道)の外東京より轉任の古い同志駒井氏等を迎へ17名。50錢位の會費で會食と會談を目的とし時々 Gastoj 又は Specialaj temoj を得て毎月一回開催往復端書で廣く案内を出す事に満場一致。

四月豫告: 毎火曜日(十四日を除く)夕七時より天六北市民館にて輪讀、R.O. 精讀其他。

Komuna Vespermanĝo 四月十四日 Z 祭北濱二丁目野村銀行五階如水會にて、渡歐の池川氏送別を兼ねて。

神戸 ★神戸エス會——例會毎木曜毎同出席數名。◇初等講習會毎火、金曜19-21時2ヶ月間、會費教材共2圓。講師中村氏。現在受講者5名。中途からの参加歓迎。◇2月20日8名。◇3月5日懇親會、第一木曜トキワ懇親會。8名出席。◇3月14日瑞典同志 A. Stenberg 通譯を伴ひ來訪。◇15日 Stenberg を名所案内。◇19日滿洲より歸國された。當會黄金時代の同志長坂氏の歓迎座談會を加納町朝日食堂に持つ。出席 10 名。◇永文堂書

房、初等講座を完へ中等講座を開く。毎日曜、教材は Patro Revenas. 毎火曜エス譯阿彌陀經。いづれも 19 時半より。無料。一般の参加歓迎。

★大屋エスペラント文庫——神戸の古い同志故大屋安雄氏の文庫をうけついで大屋エス文庫が灘區大石22の29若松壽郎方へ設立された。神戸の同志には開放すると。詳細は同所へ紹介のこと。

高知 ★高知エスクラブ——3月1日17時カフェブラジルに井澤清七氏京大復歸送別會を持つ。出席5名。◇土讃線開通、観光の節は高知市江ノ口中水道854高知エスクラブへ御一報を。

★Verda Paro——須崎町松本鹿治氏は2月4日横山富士子嬢と御結婚。Gratulon!

吳 ★吳エス會——2月21日本會宣言書を當市の名士、官廳、學校、會社及び全國の地方會へ發送。◇3月15日當會員は廣島エス會例會へ出席。2月29日5名。3月7日4名。14日5名出席。新入會者1ヶ月間に5名。

戸畑 ★北九州エス會——北九州同志の例會を3月15日19時戸畑エス會にて持つ。八幡、折尾、小倉より出席5名。研究發表。文法討議エス語物語學會現狀に就き論議。

第十三回九州エスペラント聯盟大會

時日——4月26日(日)

場所——福岡市

會場——九州帝大醫學部惠愛團講堂

主催——日本エスペラント學會福岡支部

通信は福岡市十軒屋三九一 堀内方

飯塚 ★飯塚エス會——3月13日片山政子嬢宅にて茶話會。會するもの5名。三浦隆氏の熊本及び別府エス會の談に花をさかせ23時散會。三浦氏は翌日病臥中の花村氏を慰問して歸らる。

宮崎 ★宮崎エス會——本會々員は凡て學會々員たることの理想に進みたいと思ふ。◇1月15日鹿兒島の四元氏來訪、歡迎茶會を持つ、孤軍奮闘の同氏をねぎらふ。◇2月18日盛岡より當市縣廳へ榮轉の大坪氏の歡迎會を三城樓上に持つ。

★ザメンホフ肖像畫(油繪)——宮崎エス會員川越赤江氏は古くから洋畫家として肖像畫に獨特の妙技を有さる方。今回ザ博士肖像をエス界有志に頒布しその純利をエス運

動の資金とする旨申出られた。御注文を乞ふ。(ザ博士像につき畫かれたき希望のザ博士寫眞あれば御送附されたし。)

四號 (11寸×8寸) 額縁付 10 圓

六號 (13.5×10.5) (〃) 20 圓

八號 (15×12.5) (〃) 30 圓

猶外に送料は實費を申受けます

申込先: 宮崎市南廣島通 3 杉田醫院内
宮崎エスペラント會

長崎 ★長崎支部——九大の大島廣博士の歓迎會と近く御榮轉の高島清先生の送別會を 3 月 13 日成隣會館に持つ。出席 10 數名。洋行土産話等を伺ふ。盛會。◇3 月例會は稻佐嶽へピクニーク。

第八回滿洲エス聯盟總會

(期日變更さる!!!)

時——4 月 29 日 (天長節)

所——奉天、富士町、滿洲醫科大學内

催——午後 2 時より總會、餘興、晚餐會

通信は奉天驛前瀋陽寮 33 號 堤文雄宛
滿洲エスペラント聯盟

鐵・道・と・エ・ス

本部 聯盟が結成されて既に 5 年吾々の機關誌 La Fervojisto は巻を重ねて今や 54 號が出版されやうとして居る。吾々の念願とするのは國鐵 14 萬の従業員の緑化である。一言にして國鐵緑化と云ふがこれは決して容易の業ではない。現在吾々が獲得した力はまだ微々たるものだ。苦難の道は猶遠く續き、耕すべき分野は廣い。そのため全聯盟員が打つて一丸となつた力をもつて國鐵に於ける宣傳、普及實用の爲めに邁進して居る。

★R.O. 増頁會員 之に就いては機關誌にその趣旨を報道し手紙或は電話で各地方會及個人加入者に對し極力勧誘した結果、3 月末までに下記の通り加入申込があつた。

東京 10 名、千葉 2 名、札幌 1 名、福知山 1 名、大阪 3 名、室蘭 1 名

東京★概況 最近鐵道事務の一般的繁忙とそれにかへて加へて指導者の病氣轉勤等に禍されて不振の數ヶ月を送つて來たが第三回 FER 大會を楔機として FER 全體に更生の氣が漲つて來た。

★FER 第三回大會 2 月 23 日午後 1 時丸ノ内鐵道俱樂部で華々しく開催された。天の

吾々に下した試練が當日は凄い吹雪、省電の運行さへ危まれた程であつたが定刻には既に會する者 56 名を數へた。郡山、仙臺、大阪各鐵道エス會代表及 TEK 會員の出席は吾々にとつて大きな喜びであつた。

大會はエスパーロ合唱に始まり會務報告、エス語演説、特別講演、來賓挨拶、餘興、タギージョ合唱、記念撮影をもつて成功裡に幕をとち、次で會場を有樂町蠶糸グリルに移し懇親晚餐會を開いた。尙當日は特別講演には小坂、井上、中垣三氏の講演があつた。

(寫眞次號)

★木曜研究會 從來出席者も少く中講延長の如き觀があつたが之を更め吾々の唯一の中心的研究機關とし愈々 3 月 26 日より Parolado de Dro L. L. Zamenhof を使用、更生の意氣をもつて眞剣な研究を初める。會場は丸ノ内鐵俱、毎木、5-6 時。部外からの参加も差支ない。

Nova Kunsido 暫らく冬枯をかこつたが最近出席者も増加した。來會歡迎。

Stela Kunsido 會員のエス語技術向上を目ざし久し振りで SK (演説練習會) が 3 月 28 日から復活される。丸ノ内鐵俱、13 時から。來月から毎第三土曜に。

★中等講習 既報中講 (三ヶ所開催) は 3 月終了。

★第 13 回初等講習會 4 月 27 日より丸ノ内鐵道俱樂部に開催。前回の實績に鑑み今回は丸ノ内一ヶ所としこれに全力を集中、新人の養成を期す。この通知は宣傳をかね前回同様、内外の實用例を列記し印刷物をつくり本省局の各室は勿論東京を中心とした數百の驛、機關庫、檢車所、車掌所等の長主任に送る。

FER の花見 4 月 19 日(日)午前 9 時までに東京驛一ニ等待合、行先? 參加歡迎。

札幌 輪讀會、會話會、Kunsido de Komencantoj の三つの會が持たれ、來るべき大會に備へて眞剣な勉強が續けられて居る。

大宮 昨秋開催の初講は好成績に終了、引續き横井、河野兩氏指導で Faciloj Esp. Fabeloj 輪讀中、四月より第二回初等講習會開催。

大阪 東京エス會より田中覺太郎氏の轉勤によりよき指導者を得た大鐵エス會は最近に至り往年の如き活潑な運動開始された。

★大阪朝日見學 4 月より開催の初等講習の準備工作として去る 3 月 24 日 14 時大朝見學をなす。宣傳の意味もあるので局内各室に回覽して參加をすすめたところ參加申込者續出遂に 200 名を突破した。一行は新聞社では

大いに歡待され特に講演までして呉れた。講演後田中氏は朝日新聞が絶へずエス運動を後援して呉れること、永田氏が明年開催の國際教育會議にエスペラントを入れる意志を持つて居ること等を挙げ宣傳を兼ねた感謝の辭を述べた。

★初等講習開催 五月中旬より田中氏を講師として久し振りに大鐵局初等講習會を開催。

★研究會 4月より鐵道俱樂部で毎火曜研究會が開かれ、夜は OES 會話會に参加する外久しく休んで居た會報が再び發行されることになった。(矢島記)

街のエスペラント

★阪川バター——二百瓦入の箱に Pura Freŝa Butero farita de l' Kompanio Sakagaŭa Laktejo と書かれてゐる。

★エス便箋と封筒——京城の同志朴氏の考案したもの。封筒の表にはうすい綠色でザ博士の自筆の手紙を凸版で入れ裏にはザ博士肖像と署名を二色刷で入れたもの。便箋は青色の紙で綠色で上方に La Esperanto Korea の文字を入れた圖案を入れたもの。

★寫眞機三脚「マルペーザ」——東京麹町區麹町一丁目山下友治郎商店で今度エス名の三脚 Malpeza が發賣された。輕量にして携帯に便。レツテルにエス話で書いてエス語なる旨書そへてある。

★セルフタイマー代用品「レクタ」——同上山下商店で發賣。セルフタイマーの簡單なもの。Rekta obturigilo の意で Rekta と命名。安價で便利。

★吉田家五世の事蹟一斑——埼玉の名家吉田家は家産を合計し3分の一を公益に供すべき家憲をさだめ五世200年間之を遵奉したこの書はこの一端を世に紹介したもの(著者は熊谷市末廣町濱館貞吉氏)序文の中に著者の友人高橋邦太郎氏のエス文の序文がついてゐる。菊版寫眞12葉。本文78頁。

新聞雑誌とエス語

——本欄宛の材料御送付を乞ふ——

★週刊鐵道公論(1月4日)——觀光局で集めたエス語案内記とその寫眞。

★南國日報(2月24日、3月1日、6日)——親日エスペランチストの手紙——(浦田氏)

★福岡日日新聞(3月3日)——西班牙で逢つたエスペランチスト——(大島廣博士)

★東京朝日新聞(3月4日)——オリンピックにエス語採用方陳情運動についての記事。

★讀賣新聞(3月4日)——同上。

★國民新聞(3月4日)——同上。

★大阪朝日新聞(3月5日)——同上。

★中外日報(3月13日)——同上。

★醫界展望(3月7日65號)——エスペラント創案者と切手。

★交通新聞(3月10日)——觀光局のエス語案内記に就いての記事。

★東京朝日新聞(3月13日東京版)——英語とエス語何方がよい(東京府立第六高女の入學志願者への試問)(記事)

★報知新聞(3月13日東京版)——同上。

★九州新聞(3月18日)——同上。

★福岡日日新聞(3月14日)——飯塚エス會の市議候補へ問合せに關する記事。

★東京日日新聞(3月12日東京下町版3月15日東京版)——パーマー氏送別會の記事。

★東京朝日新聞(3月14日)——同上記事。

★讀賣新聞(3月15日)——同上記事。

★函館日日新聞(3月14日)——同上記事。

★九州新聞(3月16日)——同上及同博士演說要旨。

★東京大勢新聞(3月16日)——阿部眞之助氏の所論を岡本好次氏反駁する(記事)。

★信濃毎日新聞(3月17日)——中等學校に於けるエスペラント(社説)

★大阪朝日新聞(3月20日熊本版)——神尾産婆學校エス語採用の記事。

★九州毎夕新聞(3月17日)——同上。

★世界と女性(3月號)——エスペラント講座(3)——田沼利男氏、磯部幸子嬢。

★子供の童話(3月號)——イソップの話(エスペラントから翻譯)——(磯部幸子嬢)

★養蜂の日本(3月號109號)——エス譯愛媛縣令蜜蜂轉飼取締規則。

★なんぷう(3月號)——綠星はすすみ行く加藤孝一氏。

★なんぷう(4月號)——エスペラント講座(加藤孝一氏)。

★日本(2月22日)——「國字、國語、國際語」(下)——川路柳虹氏。

★諸君(13號)——葦陽文化學院の再建に就て(池永金一郎氏)

編輯後記——記事輻輳のため「特使に托された九州各地方會の希望とそれに對するお答へ」及び會員の聲二頁ほどは次回へのばすことになりました。あしからず。

◇來月號は特輯號になりますことは次頁に記載の通り。そのため發送は5月10日前後になると存じます。

Esperantistoj Vin Atendas

こゝへ掲載希望の會合はすべて一般的の公開的會合に限る。(必ず會合するのでなければ掲載御断り)。變更の都度至急御通知を乞ふ。

東京 ★神田クシード 毎月曜 18.30-20.30 時。省線水道橋驛東京齒科醫專前愛光舎階上。

★日本橋クシード 毎火曜 18-20 時江戸橋際風月堂喫茶部。

★日本エス學會例會 毎水曜 18-20 時 Fabeloj III. 講義。20-21.30 時會話討論等。本郷元町電停横お茶水文化アパート横入。(費無料)。

★ノーヴァ・クシード 毎木曜 19-21 時四谷新宿二丁目市電京王電車前新宿白十字階下

★武蔵野クシード 毎金曜 19 時より吉祥寺驛前食堂朝日庵二階。

★浅草クシード 毎金曜 19-21 時雷門前明治製菓二階。

★クララ・ロンド 毎土曜 14.30-16 時赤坂區中ノ町 15 井田千枝方。

★アルチエント・クシード 19-21 時銀座二丁目明治製菓二階東の隅。

★Luma Kunsido 毎月第二土曜 18-22 時。お茶の水驛西半丁寶亭階上(國民中學會前)。

★Elektro-Esp-Grupo 毎月第二金曜。銀座明治製菓で。電氣關係者の出席希望。

横濱 ★Verda Jupitero 毎木曜 19 時半より中區住吉町三丁目(横濱劇場横通り)メッセンチャーボーイ事務所階上(費無料)。(電話 3-3943)

札幌 ★札幌エス會 毎週水曜 18 時半南四條西十四丁目相澤方。

帯廣 ★帶廣エス會 毎週金曜 19-21 時西二條九丁目塚田醫院にて。

旭川 ★旭川エス會 毎金曜 19-21 時一條通七丁目木津醫院にて。

盛岡 ★盛岡エス 毎水曜 19 時内丸 331 井川醫院方。

富山 ★Marda Kunsido 毎火曜 19-21 時。富山市神通町、愛宕小學校左

入、渡部隆志方(初等向、無料)。

金澤 ★金澤エス會 中等部例會毎木曜 19-21 時石浦町石川貯蓄銀行。

名古屋 ★名古屋エス會 毎週火曜 19 時より中區鐵砲町二丁目白木氏宅。

★ルーマ・クシード 毎火曜東新町角サンパウロ喫茶店マヨール氏主宰(會話會)。

◇毎金曜 19.30-22 時名古屋新聞販賣部階上。

京都 ★京都エス聯盟 毎月 15 日 19 時出町スター食堂。

★Oka Kunsido 毎月 8 日 19-21 時賀茂大橋東コスモ(市電叡電前)、會費 15-30 錢。

大阪 ★大阪エス會 毎火曜 19-21 時天満六丁目北市民館)但第三火曜は Trapezo で會話會)。

★新星會 毎月 20 日 19 時より櫻橋農園フルツパーラー二階。

★パパゴ會 毎月第一第三金曜 19-21 時道頓堀辨天座前バザード喫茶店(研究會)。

岸和田 岸和田エス會 第一第三日曜 19 時昭和通西方寺にて會合。

神戸 ★神戸エス協會

廣島 ★廣島エス會 毎曜 19 時大手町 7 の 89 高橋謙方。

吳 ★吳エスペラント會 毎土曜 19-22 時東畑町一矢野泰方。

熊本 ★熊本エス會 ◇會話毎月第一第三月曜 19-21 時水道町大學堂喫茶店にて。◇和文エス譯。◇毎月第四五月曜日大江町坂崎氏宅。◇月例懇談會—毎月第二月曜日神尾氏(水前寺)宅で。

大牟田 ★大牟田エス會 毎火曜 20-23 時榮町二植田醫院方。

宮崎 ★宮崎エス會—毎火曜 19 時半より郡司氏宅(Z讀本輪講中)。

告 次號發行期日は十日位遅延します。本誌次號五月號は創刊號から通算してまさに二百號になりますので二百號記念として特輯を出したいと思つて目下努力中です。編輯の都合で發行期日が五月十日前後になるかもしれませんが豫め御諒承願上げます。但し地方會報道は四月十日締切たし。學會 Revuo Orienta 編輯部

LA REVUO ORIENTA

Jarkolekto 1935

總目次 ENHAVO

【卷頭論文】

同志倍加に協力せよ	1
官設翻譯局設置論	211
エス語文獻を殖やせ	331

【學習・研究】

La Plena Vortaro vidita de Kemiisto	
前田 勤	14
El Paperkorbo de Gramatikulo	
小坂 狷二	16,
81, 107, 132, 151, 181, 283, 302, 332	
第六回 U. V. 増補公用語根	193
Drezen の近著をよむ	前田 勤 197
誌上座談會	編輯部 198, 224
歩みし道、昇る坂	川崎直一 345
日本語のエス音譯方式について	
高橋 肇	347

【學 藝】

Pioniroj de Holanda Lingvo	大崎和夫 2,
	95, 127
Voki Patron	大谷正一 5
Andromeda tipo en Japania Mitologio	
露木清彦	7
Monto Mjôkô	西村正雄 10
Vita Sexualis	川崎直一 12
Sur Matena Trotuaro	橘 健二 13
Pri la Utileco de Tagluma Elektrolampo	
por Kortobirdoj	甲斐庄太郎 15
Malfruaŭtuna Vespero	檀 辻 浩 19
Uragano	佐藤系治 22
Historieto de Japania Literaturo	
長谷川テル	69
Listo de Esperantaj Tradukoj de Japanaj	
literaturaĵo	編輯部 42, 76, 106

Ucusemi	川村信一郎 63
Fraŭlino kiu amas bestetojn	長谷川テル 69
Hakamadare	石黒彰彦 71
Marĉejo	關本孤竹 72
Kvodlibeto de utao	島貫清子 74
La Himno de Manĉuria Imperio	
鈴木北夫	100
Kiel Animaloj vidas Movadon	
丘 直通	101
Mito-literaturo	露木清彦 105
Anamnezo の書き方	鈴木北夫 109
Societo de Internacia Frateco	123
Rememoro pri S-ro Eiichi Tsuchii	
鳥貫清子	124
Studo pri markitaj fiŝoj	田口龍雄 134
Laponlando	Siri Linnander 137
El "Curezuregusa"	小野田幸雄 140
Taketori-monogatari	五十嵐正巳 153,
	183, 277, 336
Unu novelo de amo	川田啓吉 155
Stellan Engholm en Leteroj	前田 勤 159
Unu ĉapitro el "Iu Virino"	金子美雄 160
Endokrinaj glandoj	俣野四郎 164,
	186, 341
エスペラント點字の話	中西義雄 197
Pri la problemo de vino	安田龍夫 189
La sociaj kaŭzoj de la vagabondeco ĉe	
infanoj	Henriko Gelb 191
Reliefo de nia Majstro farita el gisfero	
kiel sendito al Roma Kongreso	212
La konturo de la urbo Nagoja	
矢崎富美人	271
Pripensindaĵoj porkongresaj	J. Major 274
Liberigu Esperanton for de nelogikaj	
elementoj	岡本好次 276
"Venĝo" en Japania Mitologio	露木清彦 281

Rezolucio pri Gramatiko, Stilistiko, Vortaro	299
Organizo de Sudmanĉuria Fervoja Kompanio	大谷正一 300
Al Korespondanto	西村正雄 301
Venuso	城内忠一郎 306
Pri la precipitaĵkvanto de Norda Pacifika Oceano	田口龍雄 338

【運動・宣傳】

エスペラントもやつた老牧師を中心に	白木欽松 18
Varsovia Dua Vira Gimnazio	岩下順太郎 20
海外報道	23, 230, 311
内地報道	24, 50, 83, 115, 144, 169, 201, 231, 267, 285, 321
財団法人日本エスペラント學會	
昭和九年度會計報告昭和十年度豫算案	89
日本學術雜誌に出た外人のエ スペラント	前田 勤 104
英語の先生なればこそ	菅野祐治 114
建設を忘れて破壊に急なる事	
勿れ	藤高秀超 194
紀念艦三笠とエスペラント	宗近眞澄 200
エロシエンコと私	秋田雨雀 217
二葉亭四迷と《世界語》	井上 一 220
世の英語教師に捧ぐ	菅野祐治 221
中等學校外國語問題とエス ペラント	編輯部 241
中等學校における外國語及び エス語について	丸山丈作 242
中等學校における語學の問題	

とエスペラント	加茂秀雄 244
馳け出しの英語教師として	渡部隆志 246
中等學校の外國語	中目 覺 247
エス語に接しての第一感想	鈴木廣次 247
ドイツ語教師として	荒井道太郎 247
中等學校でのエス語教授の時 間數	田中政夫 248
自由で奔放容易で偉大なエス ペラントよ	亘理俊雄 249
中等學校語學問題とエス語	多羅尾一郎 250
英語教授研究所座談會に對す る疑義	新川正一 252
女學生と外國語	片山政子 255
英語教師がエス語を受入れ難 い諸點	佐々城 佑 256
中等學校語學問題とエス語	田沼利男 257
エス語講習をうけて感じたこと	
	越野芳雄 258
英語教授はエス語から	菅野祐治 259
Basic English 批判	岡本好次 265
岡本「和エス」についての感想	
	川崎直一 304
川崎氏の感想をよみて	岡本好次 305
第27回萬國大會記	編輯部 310
學會特使派遣	313
第27回日本エス大會の記	編輯部 314

【雜】

新刊紹介	編輯部 111, 226, 307
Parolas membroj	12
エス語書き科學文獻目錄補遺	175
Aperis nova gvidlibreto "Japanujo"	229

新維持員氏名紹介 (第三回發表)

——2月16日から3月15日までに會費受領済の新入會者——

〔普〕とあるは普通會費、他は正會員。誌面の都合上敬稱省略。

東京 石川宅十郎、朱文央、 鎌田秀治、高橋菊藏、中島 良三、百瀬勇、宮本芳治 〔普〕小池壽、加藤孝一、中 垣虎兒郎、野上道子、藤田 春雄、林秋雄	四日市 〔普〕井上政太郎、山 本國太郎 帶廣 〔普〕黒澤正子、長谷川 守 長野 〔普〕河野吉男、菅沼寛 小樽 〔普〕高橋要一、本間源 吾 静岡 〔普〕飯塚傳太郎、富 永齋 熊本 河邑光城 千葉 古泉三次 新潟縣 佐久間正造 愛知縣 寺倉一雄 桐生 能力喜一郎 大連 森原奎三 仙臺 李斗星 岩手縣 〔普〕伊藤敏夫	久留米 〔普〕勇福太郎 高知縣 〔普〕井澤清七 宮崎縣 〔普〕兒玉安男 旭川 〔普〕木津義雄 富山縣 〔普〕五艘辰男 兵庫縣 〔普〕小栗峯子 宮崎 〔普〕杉田惠美子 廣島 〔普〕佐々木忠 臺北 〔普〕杜滄浪 茨城縣 〔普〕中村松美 佐賀 〔普〕朴華英 岸和田 〔普〕西田亮哉 高知 〔普〕藤田穠三 香川縣 〔普〕平良文太郎 神戸 〔普〕若松壽郎 中國 〔普〕熊守湘
札幌 〔普〕太丸マツ、小森政 雄、後藤喜六、木村喜王治 仁岸陸夫 長崎 〔普〕岡本豪二、西仁 壽、後藤正彦 朝鮮 李家鐘、〔普〕吳智變 盛岡 安本靜江、〔普〕小原 小二 福岡縣 高取春子、〔普〕川關 巖 大阪 竹内三朝、〔普〕原正三		

新入會員數地方別

〔正〕は正維持員、〔普〕は普通維持員、括弧内の數字は一月からの通計

〔都市〕(人口十萬以上の都市、人口順) 東京正 7 普 6 計 13 (32); 大阪正 1 普 1 計 2 (6); 名古屋 0 (6) 神戸普 1 (5); 京都 0 (3); 横濱 0 (8); 廣島普 1 (5); 福岡 0 (1); 長崎普 3 (5), 函館 0 (1); 吳 0 (6); 仙臺正 1 (2); 札幌 普 5 (7); 熊本正 1 (1); 小樽 普 2 (2); 鹿兒島 0 (1); 静岡普 2 (2)

〔道府縣〕北海道普 3 (8); 岩手正 1 普 2 計 3 (4); 宮城 0 (1); 茨城普 1 (1); 群馬正 1 (3); 千葉正 1 (4); 神奈川 0 (1); 新潟正 1 (1); 富山普 1 (2); 石川 0 (1); 山梨 0 (1); 長野普 2 (3); 静岡 0 (1); 愛知正 1 (1); 三重 普 2 (4); 京都 0 (1); 大阪普 1 (1); 兵庫普 1 (3); 徳島 0 (1); 香川 普 1 (3); 愛媛 0 (1); 高知普 2 (2); 福岡正 1 普 2 計 3 (8); 佐賀普 1 (2); 大分 0 (1); 宮崎普 2 (3); 鹿兒島 0 (1)

〔鮮臺滿その他〕奉天 0 (2); 大連正 1 (2); 臺北普 1 (1); 臺南 0 (1); 朝鮮正 1 普 1 計 2 (3); 南洋 0 (2); 滿洲 0 (1); 中國普 1 (1)

合計正 18 (67) 普 45 (102) 總計 63 (169)

増頁新維持員紹介追加

臺南 ★啓南緣星會 (呂聰田氏); 戸畑 ★戸畑エス會 (越水武夫氏); 富山 ★富山エス會 (五艘辰男氏); 帶廣 ★帶廣エス會 (井上明、長田光男氏)。猶増頁會員として紹介されたものも編輯部へ報告なきため上の表に洩れたものもあると存じます。御氣付の節は御しらせ下さい。なほ増頁會員としての募集は3月末で打切ます。(R. O. 編輯部)

ザメンホフ忌紀念

驚異的大特賣

LA ORIGINALA VERKARO

本會會員の直接注文に限り

定價 6 圓

特價 4 圓

送料 33 錢

本書については多くの言葉を要しない——エスペランチスト
必備の書物である。ただ定價の高いために入手が容易でない
だけである。今回特殊の方法により入荷したので、四月十五
日のザメンホフ忌を期として**本會會員に限り**驚異的特價によ
り提供することとした。但し、これは殆んど手数料なしの犧
牲的特價であるから、必ず本會あて**直接の前金注文に限り**、
期日は**四月末日**であるが、期間中でも今回の入荷數(30部)
賣切の場合は締切るゆる即刻御注文あれ。

財團
法人

日本エスペラント學會

新着書案内

✓ I. Lejzerowicz: EL LA „VERDA BIBLIO“ 定價 50 錢
送料 2 錢

1. 太初に體なき神秘ありき、ヴォラプクと名けたり。2. ヴォラプクは形なく混沌とし
て、闇その中にありき。3. しかして體なき神秘は光あれと云ひき。かくてエスペラ
ントありき。……といふ、これは、エスペラント運動の、そもその「創生紀」から
はじめて、その將來に對する「豫言書」をふくむ、ありがたい「緑の聖書」です。

m M. de Waad: LA ESPERANTA LITERATURO

定價 80 錢 送料 2 錢

エスペラント文學の全般にわたつて目を通すに都合のよい著書です。エスペラント文
學の概論、文學書の解説、原作小説の梗概、それに、問題集をそへたもの。エスペラ
ント文學に興味を持つ人はぜひお備へください。

✓ Peter Frey: ESPERANTAJ HISTORIETOJ 定價 40 錢
送料 2 錢

おもしろい笑話、逸話等を多數あつめた、やさしい讀物集。

東京市本郷
元町一丁目

財團 日本エスペラント學會
法人

電話小石川 5415 番
振替東京 11325 番

新 著 洋 書

ČEĤOSLOVAKA ANTOLOGIO

菊大判 468 頁・定價 3 圓 60 錢・送料 21 錢

「人造人間」のカレル・チャペックなどによつて、日本人には辛うじて知られてゐるチェコスロバキヤ文學は、しかし、親しみ深い人間の匂ひに富んだ多くの作品を生んでゐる。本書には、われわれに未知の、この小國文學の散文と詩數十篇をあつめ、これに、この民族が生んだ名畫數十葉の複製品を添へてある。

UPTON SINCLAIR: PETROLO VOLUMO UNUA

四六判 306 頁・9 ポイント密組・定價 3 圓・送料 8 錢

世界の勝利者を決定する石油——その石油を製産する煙に空を曇らす南カリフォルニアで二十年の長い間にわたつて、今日のアメリカ文壇に君臨するシンクレアが觀察したところのもの。これは、實在の人と事件によつて大資本主義帝國の真相を描いた構想雄大な世界的大作である。

BLASCO IBANES: SANGO KAJ SABLO

菊判 300 頁・9 ポイント組・定價 2 圓・送料 8 錢

カルメンの國スペイン、ドンホセの國スペイン——スペインは戀と闘牛の國である。「血と砂」はこの南歐情熱の國の近代が生んだ最も代表的な傑作

Dr. S. KAMARYT: FILOZOFIA VORTARO

四六判 170 頁 8 ポイント組・定價 2 圓 50 錢・送料 6 錢

數百個の哲學上の術語に對して親切な説明を加へたもの。一語の説明に數頁を割いたものも多數ある。讀書家の机上におくに手頃な參考書である。

G. WARINGHIEN: FACILAJ ESPERANTAJ LEGAJOJ

四六判 194 頁・定價 50 錢・送料 4 錢

やさしい anekdotoj からはじめて、童謡、詩、その他、古いの、新しいの、いろいろな顔ぶれから選んだ名作の拔萃、中等講習、輪講會等の材料としても、學習かたがたの讀物としても興味深い。

エスペラント

四月號

ザメンホフの生涯と事業 …… 高 木 弘

ザメンホフとエスペラントとに對する研究の再出發の概論として、すべての同志の一讀を要するものである。

悼まれる闘士二人（マァチャントとクロイツ）

皇紀二千六百年に東京で萬國大會を（初等讀物）

前置詞略解・Anstataŭ, krom…小坂 狷 二

エスペラント生活三十年 …… 高橋邦太郎

おもかけ（藝術味高いイタリー映畫の寫真入物語）

狀況補足語 …… 倉 地 治 夫

日本の風俗習慣（自由作文講評）…中垣虎兒郎

新刊批評の文章（和文エス譯指導）三宅史平

仙臺（地方會を中心として）…… 鈴 木 北 夫

そ の 他

定價二十錢・送料五厘

全國各地書店にあり

一年分前納（送料共）2圓 30 錢・半年分 1 圓 20 錢

見本切手 10 錢

東京 本郷 元町

財團法人 日本エスペラント學會

電話小石川 5415 番・振替東京 11325 番

昭和十一年四月十五日發行（毎月一回一日發行）
ラ・レゾオ・オリエンタ（エスペラント研究）第十七年第四號

定價廿錢（送料二錢）

兼發行 人

法人

日本エスペラント學會
右代表 大井